VOL.21 No.4
平成10年9月20日発行
ISSN 0285—9262

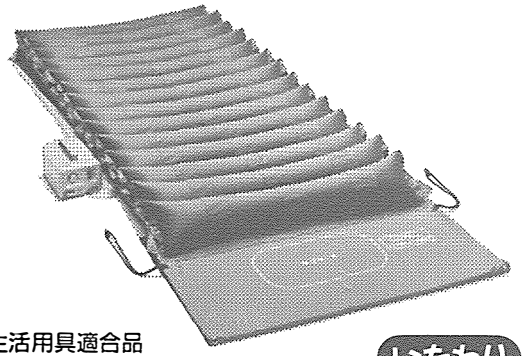
日本看護研究学会雑誌

(Journal of Japanese Society of Nursing Research)

VOL.21 NO.4

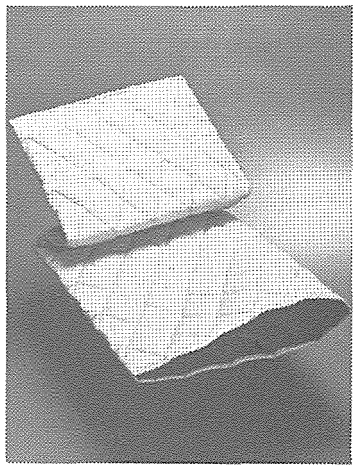
日本看護研究学会

お任せ下さい。
床ずれ予防の体位変換



厚生省日常生活用具適合品
RBエアーマット
いたわり
テイゾー

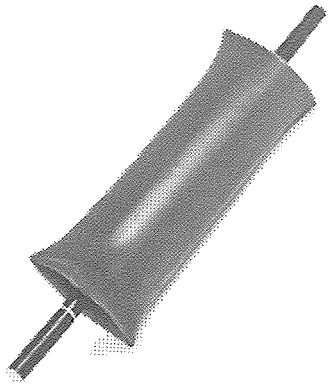
患者の体位交換や
移動が容易にできる



スライド
ヘルプ

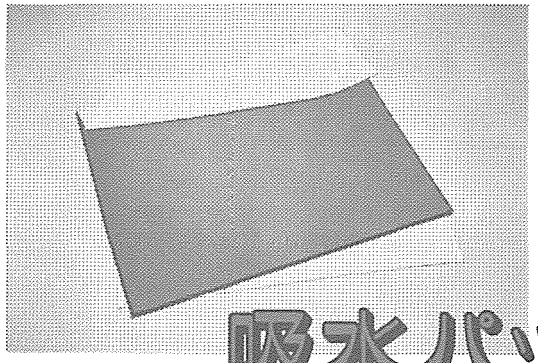
帝国臓器の
介護用品

患者さんの腰を
らくに持ち上げる



厚生省日常生活用具適合品
リフパッド

素早い吸水・吸湿と保水と防水と
——失禁シーツとして。清拭時などにも——



吸水パッド

帝国臓器製薬株式会社 特販部医療具グループ
〒107 東京都港区赤坂二丁目5番1号(東邦ビル) ☎(03)3583-8365(直通) FAX(03)3583-5609

会　　告　(1)

第24回日本看護研究学会に於いて，第26回（平成12年度）学術集会会長は千葉大学草刈淳子氏に決定致しました。

平成10年７月30日

日本看護研究学会
理事長　草　刈　淳　子

会　　告　(2)

第25回日本看護研究学会学術集会を下記の要領により，浜松市に於いて，平成11年７月30日（金），31日（土），８月１日（日）にわたって開催いたしますのでお知らせします。

平成10年９月20日

第25回日本看護研究学会学術集会
会長　田　島　桂　子
（聖隷クリストファー看護大学）

期　　日　　平成11年７月30日（金）～８月１日（日）
場　　所　　アクトシティ浜松　大ホール・コングレスセンター
浜松市板屋町111－１　TEL 053－451－1111（代）
学術集会　事務局
演題申込み関係：
〒461-8763　名古屋市東区大幸南１－１－20
名古屋大学医学部保健学科　看護学専攻基礎看護学講座内
日本看護研究学会東海地方会事務局
TEL & FAX　052－719－1574
参加申込み関係・その他：
〒260-0856　千葉市中央区亥鼻１－２－10
日本看護研究学会
TEL 043－221－2331　　FAX 043－221－2332

会　　告　(3)

日本看護研究学会奨学会下記規定に基づいて，平成11年度奨学研究の募集を行います。応募される方は規定，及び次頁要項に従って申請して下さい。（第１回公告）

平成10年９月20日

日本看護研究学会
理事長　　草　刈　淳　子

日本看護研究学会奨学会規程

第１条（名　称）

本会を日本看護研究学会奨学会（研究奨学会と略す）とする。

第２条（目　的）

本会は日本看護研究学会の事業の一として，優秀な看護学研究者の育成の為に，その研究費用の一部を贈与し，研究成果により看護学の発展に寄与することを目的とする。

第３条（資　金）

本会の資金として，前条の目的で本会に贈与された資金を基金として，その金利をもって奨学金に当てる。

会計年度は，４月１日より翌年３月31日迄とする。

第４条（対　象）

日本看護研究学会会員として３年以上の研究活動を継続している者で，申請または推薦により，その研究目的，研究内容を審査の上，適当と認めた者若干名とする。

２）日本看護研究学会学術集会において，少なくとも１回以上発表をしている者であること。

３）原則として，本人の単独研究であること。

４）推薦の手続きや様式は別に定める。

５）奨学金は対象研究課題の１年間の研究費用に充当するものとして贈る。

６）研究が継続され，更に継続して奨学金を希望する者は，改めて申請を行うこととする。

第5条（義　務）

この奨学金を受けた者は，対象研究課題の1年間の業績成果を次年度，日本看護研究学会学術集会において口頭発表し，更に可及的早い時期に日本看護研究学会会誌に論文を掲載し公刊する義務を負うものとする。

第6条（罰　金）

奨学金を受けた者の負う義務を怠り，また日本看護研究学会会員として，その名誉を甚だしく毀損する行為のあった場合は，委員会が査問の上，贈与した奨学金の全額の返還を命ずることがある。

第7条（委員会）

本会の運営，審査等の事業に当たり，日本看護研究学会理事会より推薦された若干名の委員によって委員会を設ける。

2）委員会に委員長を置き，本会を総括する。

3）委員会は次の事項を掌務する。

① 基金の財産管理及び日本看護研究学会理事長への会計報告

② 奨学金授与者の選考，決定及び理事長への報告

③ 授与者の義務履行の確認，及び不履行の査問，罰則適用の決定及び理事長への報告

④ 奨学金授与者の選考及び授与者の義務履行については，別に定める。

第8条

委員会より報告を受けた事項は，日本看護研究学会理事長が総会に報告する。

第9条

奨学金を授与する者の募集規程は，委員会において別に定め，会員に公告する。

第10条

本規程は昭和54年9月24日より発効する。

付　則

1）昭和59年7月22日　一部改正（会計年度の期日変更）実施する。

2）平成6年7月29日　一部改正（会則全面改正に伴い）実施する。

3）平成8年7月27日　一部改正実施する。

日本看護研究学会奨学会
平成11年度奨学研究募集要項

1．応募方法

1）当奨学会所定の申請用紙に必要事項を記入の上，鮮明なコピー６部と共に一括して委員長宛（後記）に書留郵便で送付のこと。

2）申請用紙は返信用切手80円を添えて委員長宛に請求すれば郵送する。

3）機関に所属する応募者は所属する機関の長の承認を得て，申請者の当該欄に記入して提出すること。

2．応募資格

1）日本看護研究学会会員として３年以上の研究活動を継続している者。

2）日本看護研究学会学術集会において１回以上の発表をしている者。

3）原則として本人の単独研究であること。

3．応募期間

平成10年11月１日から平成11年１月20日の間に必着のこと。

4．選考方法

日本看護研究学会奨学会委員会（以下奨学会委員会と略す）は，応募締切後，規定に基づいて速やかに審査を行い当該者を選考し，その結果を理事長に報告，会員に公告する。

5．奨学会委員会

奨学会委員会は次の委員により構成される。

委員長　木　場　冨　喜（鹿児島純心女子大学教授）
委　員　中　島　紀恵子（北海道医療大学教授）
　　野　島　良　子（広島大学教授）
　　波多野　梗　子（愛知県立看護大学学長）
　　前　原　澄　子（三重県立看護大学学長）

6．奨学金の交付

選考された者には１年間15万円以内の奨学金を交付する。

7．応募書類は返却しない。

8．奨学会委員会の事務は，下記で取り扱う。

〒260-0856　千葉市中央区亥鼻１－２－10
日本看護研究学会
奨学会委員会
委員長　　木　場　冨　喜

（註１）　審査の結果選考され奨学金の交付を受けた者は，この研究に関する全ての発表に際して，本奨学会研究によるものであることを明らかにする必要がある。

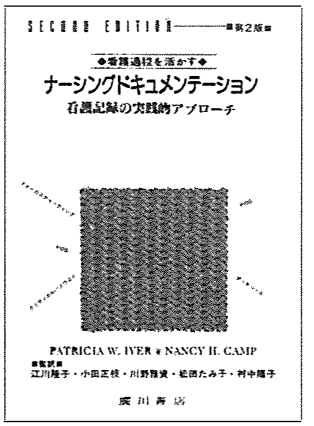
（註２）　奨学研究の成果は，次年度公刊される業績報告に基づいて奨学会委員会が検討，確認し理事長に報告するが，必要と認めた場合には指導，助言を行い，又は罰則（日本看護研究学会奨学会規定第６条）を適用することがある。

記録の基本から応用に至る最新の知識を解説

看護過程を活かす
ナーシングドキュメンテーション
—看護記録の実践的アプローチ—

大阪大学医学部保健学科教授　江川隆子
西南女学院大学保健福祉学部看護学科助教授　小田正枝
三重県立看護大学看護学科教授　川野雅資　監訳
前東京医科歯科大学医学部保健衛生学科助教授　松田たみ子
東海大学健康科学部看護学科助教授　村中陽子

B5判　450頁　4,300円



◆看護過程・看護診断の活用される記録を書くために，記録の基本から応用に至る最新の知識をわかりやすく解説した．

◆現行の記録システムの変化（フォーカス・チャーティング，クリティカルパス等）に対応した新しいアイデアと方略を紹介した．

◆多分野の記録（在宅・長期ケア記録，クリティカルケア記録，患者教育フローシート等）を具体的に展開した．

◆記録のコンピュータ化，看護ソフトウェアの利点・欠点，将来の展望についてわかりやすく解説した．

◆記録システムを変更する際の手続き，段階，プログラム設計，スタッフの運用について紹介した．

主要目次

1　記録の概要

2　アセスメントの記録

3　看護診断とケアプランの記録

4　フローシートを用いた看護実践記録

5　評価記録

6　記録の法的側面

7　記録上の重大な問題

8　ホームケアと長期ケアの記録

9　記録システム

逐語記録／問題指向チャーティング（SOAP）／PIE（Problems Interventions Evaluation）チャーティング／フォーカスチャーティング／例外事故の記録／記録方式の選択時に考慮すべき一般論／要約

10　看護情報のコンピュータ化

11　記録システムの変更方法

付録A　看護専門家団体

付録B　看護診断の分類項目
NANDA 看護判断の分類項目（人間の反応パターンに基づいた看護判断の分類）／機能面から見た健康パターンに基づく看護診断

廣川書店
Hirokawa Publishing Company
消費税が加算されます．
113-0033　東京都文京区本郷3丁目27番14号
電話03(3815)3652　FAX03(3815)3650

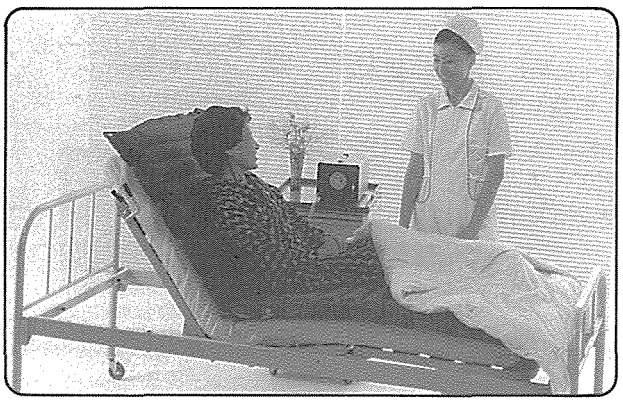
辛らーい床ずれ・病臭の解消に!

エアー噴出型
特　　許

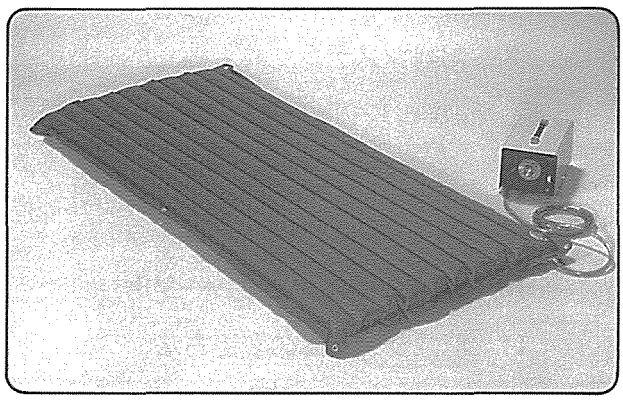
サンケンマット®

科学技術庁長官賞 受賞品

床ずれ治療に噴気型のパイオニア



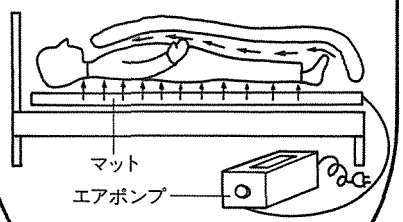
SGM-I型　定価93,000円



SM-I型　定価88,000円

ユニークな原理(特許)

- ●噴出するエアーが患部を乾燥させ、細菌の繁殖をとめます。
- ●重症の床ずれ、病臭ほど威力を発揮します。
- ●体位交換が楽になり、看護の労力を軽減します。



製品についてのお問い合せは、
お気軽にお電話下さい。

厚生省日常生活用具適格品エアーパット

サンワカケン
医療化器機部　特品金属部　畜産器機部
三和化研工業株式会社
本社工場　〒581 大阪府八尾市太田新町2丁目41番地　TEL 0729(49)7123(代) FAX 0729(49)0007

目　　次

－原　著－

看護学生の学習態度と自尊感情の縦断的研究 …… 7
―ある公立看護短期大学の場合―
福井県立大学看護短期大学部　寺島　喜代子

第23回日本看護研究学会講演記事（3）

教育講演

統計処理の問題点　―誤用のはなし― …… 23
久留米大学医学部看護学科　栗谷典量

CONTENTS

…… Original Paper ……

A Longitudinal Study of Learning Attitude and Self-Esteem of Nursing Students
— Based on A Prefectural College of Nursing — 7
Fukui Prefectural University College of Nursing : Kiyoko Terashima

－原　著－

看護学生の学習態度と自尊感情の縦断的研究
－ある公立看護短期大学の場合－

A Longitudinal Study of Learning Attitude and Self-Esteem of Nursing Students
－ Based on A Prefectural College of Nursing －

寺　島　喜代子
Kiyoko Terashima

キーワード：　入学動機・学習態度・縦断的変化
entrance motivation • learning attitude • longitudinal change

Ⅰ．はじめに

看護学科とは，看護職養成を主軸とした目的学科であり，その教育目標は将来看護者としての必要な専門的能力の育成が中心となっている。そのために卒業後，看護職以外の職業を選ぶ余地は少なく，看護学科に入学してくること自体が職業選択の結果ととらえられる。

しかしながらエリクソン[1]は，職業選択が迫られるときこそ青年期における最大の危機であり，職業的同一性が確立できるには「制度化された心理－社会的猶予期間」のなかで自由な役割実験が行われねばならないとしている。この指摘をふまえて看護学生がおかれている教育的環境を顧みると，その学生生活は心理的猶予期間を謳歌できるとは言い難く，他の一般的な教育課程と比べてかなり過密である。さらに看護者としての専門的な態度や価値観を短期間のなかで内面化しようとする点も大きな特徴である。このような看護教育が，成長発達段階の最もデリケートな段階にある学生に及ぼす影響は大きく，そうした点から学生の変化を明らかにした研究は数多い[2)3)4)5)6)7)8)]。そしてそれらの多くが，入学後自己概念の不一致に悩んだり，学年の進行によって進路適合感の低下がみられることを指摘している。こうした点について小島[9]や内田ら[3]は，職業意識の形成過程において2学年は現実直視をとおして職業意識が芽生える段階であり，職業意識の低下は必然的な現象だと明言している。

本学においても，1学年から2学年にかけての学習態度の低迷化が問題となっている。それについて筆者は，必然的な現象であるとする従来の知見[3)7)8)9)10)]に加えて2つの要因が影響していると考える。その一つは本学の現行の教育課程である。本学は1年次末に8日間の基礎看護実習があり，2年次は専門科目の講義が主体となり，3年次に集中的に各論実習を行う教育課程としている。これは臨床経験の乏しい2年次の段階より専門科目の講義が先行していくことになる。その結果学生は実践との関連づけが困難となり，学習意欲が低下すると筆者は予測する。そのために臨床実習を2年次より分散的に取り入れながら講義に臨むことで学習への動機づけが高まると考える。とはいえ，このような見解はあくまでも筆者の経験的なものでしかない。したがって，3年間の学習態度の推移をあきらかにしたうえで，筆者が提案する教育課程の是非を検討していくことが必要と考え，本研究の第一の目的とした。次に入学動機も学習態度に大きな影響を及ぼすと予測される。職業教育の色濃い看護学科で，学生の職業志向の強弱はその後の学習に影響していくと考えられる。この点について筆者はすでに，入学動機の相違が入学3カ月より2年次に至っても学習態度に大きな影響を与えていることを確認した[11)12)]。そこで入

福井県立大学看護短期大学部　Fukui Prefectual University College of Nursing

学動機が3年間の学習態度にどの程度の影響をもたらしていくのかを明らかにすることを本研究の第二の目的とした。

以上2点については，縦断的な調査が必要である。今回，入学時から卒業直前にわたって3年間にわたる学生の変化を追跡した。先行研究の多くが横断的な学生の変化をみたものにとどまっていることから，本研究の報告の意義は大きいと考える。

Ⅱ．研究方法

1．対象および調査時期

公立短大の看護学科（3年課程）の1993年度入学生58人全員（女性56人，男性2人）を対象に質問紙調査を集団的に行った。入学時の年齢幅は18歳から28歳で社会人経験者が4人含まれていた。

調査時期は，1993年7月，1994年4月と11月，1995年4月と10月，1996年2月の6回である。その際，本調査が縦断的推移を重視した調査のために記名式での回答が必要であることを説明し，調査協力はあくまでも学生の自由裁量に任せられたものであることを強調したうえで実施した。その結果，全調査時期をとおしての平均回収率は94.8%であり（順に，58名，56名，58名，54名，51名，53名）それらを分析対象とした。

2．調査内容

筆者は看護学生の学習態度は看護職に対する進路適合感のうえに成り立っていると考える。そこで学習意欲と学習イメージという両尺度からとらえたものを学習態度とした。さらにこれらに重要な影響を与えているのが学生の自我発達と考え，その下位概念である自尊感情を用いた。

もとより自尊感情は，社会的是認と受容によって獲得されるものである。したがって，臨床実習が重視されている看護教育は，学生にとって既成の自己概念を修正していく機会に多くさらされており，その人格的発達をみていくことは本研究の目的からも重要と考えた。

なお，自尊感情の定義については，「自己意識の感情的側面」とか，「自己評価の感情」と様々な見解がある。そのなかで遠藤[13]は「健康な自己愛」ととらえて，「自尊感情は個人が自己の価値についての知覚である」と定義している。そして，一般的に自尊感情が高い人は内的安定度が高く，自己を受容し対人関係においても不安緊張が低い「十分に機能する人間」であるとしている。逆に自尊感情が低くなると劣等感や無価値観にさいなまれ，不適応に陥る恐れがあるとしている。そこで，本論文で問題とする自尊感情は，遠藤の定義と同じ考えにたったものである。

① 学習意欲

職業的アイデンティティの確立過程にある学生にとって，学生自身が看護職に“向いている”といった進路適合感を意識できることが学習に対するやりがいや価値を見いだせ，学習意欲につながっていくと考える。そこで職業的同一性の形成過程からとらえた安藤[7]や波多野ら[8]の尺度を参考にしながら筆者が21の質問項目を作成した。ただし初回調査時期である入学3ケ月の時点では未だ看護の専門的な学習領域に達していないことより，「看護とはこんなものかと失望した」といった5項目は除外した。なお，質問項目の妥当性については上位下位分析によって確認した。

② 学習イメージ

「この学校で勉強する気持ち」として漠然とした学習に向かう気持ちを問うたものである。内田ら[3]が「看護の道を選択した感情」として用いた9項目を用い，学習イメージの測定用具とした。

● 自尊感情

遠藤[14]が紹介している自尊感情尺度の16項目を用いた。

3．分析方法

以上の項目はすべてに対して，“5非常にあてはまる”から，“1ほとんどあてはまらない”までの5段階評定を求めた。

統計処理は，否定的な質問項目の評定点は逆転したうえで全項目の合計得点を求めた。そして入学3カ月（以後，1年夏とする），2年時4月（以後，2年春とする），2年時11月（以後，2年秋とする），3年4月（以後，3年春とする），3年10月（以後，3年秋とする），そして3年2月（以後，卒業前とする）と6回（自尊感情に関しては5回）の測定時期毎に平均値を算出した。

「学習意欲」と「学習イメージ」に関しては，質問項目の妥当性を確認するために，それぞれの測定時期の合計得点の各上位，下位者25%の学生間において有意差のある項目を抽出した。そして有意差のある項目数が最も多い調査時期（2年春）の項目を基準として

合計得点を基に繰り返しのある分散分析とt検定を行った。その際，測定時期を第一要因に，「看護の道を選択するうえでの自分自身の影響の強さ」を問うた項目に対して，“強い”と答えた学生を「強群」，“中”“弱”“ほとんどない”と答えた学生を「弱群」とグループ分けし，入学動機の強弱を第2要因に加えた。

自尊感情に関しては16項目すべての合計得点を基に分析した。

Ⅲ．結　果

1．質問項目の上位下位分析（表1）

「学習意欲」は2年秋までは21項目中20から19項目に有意差が認められたが，3年春以降は有意差のある項目が激減し，卒業前ではわずか5項目のみであった。「学習イメージ」の9項目は3年春まではすべての時期において有意差が認められたが，3年秋以降で有意差の認められたのは5，4項目と減少した。

2．全体的な推移（表2）

① 学習意欲（図1）

1年夏から卒業前までの学習意欲の平均値をもとに，測定時期を要因とした繰り返しのある一元配置の分散分析を行ったところ，測定時期の主効果を認めた（$F(5,240)=3.72$, $p<.01$）。そこでどの時期の間に学習意欲の差が認められるかを対応のあるt検定を用いて調べたところ，1年夏と2年春（$t(54)=2.22$, $p<.05$），1年夏と2年秋（$t(56)=2.53$, $p<.05$），1年夏と3年秋（$t(48)=2.88$, $p<.01$）2年春と卒業前（$t(49)=3.12$, $p<.01$），2年秋と卒業前（$t(49)=3.00$, $p<.01$），3年春と卒業前（$t(50)=2.49$, $p<.05$），3年秋と卒業前（$t(48)=4.27$, $p<.001$）で有意差が認められた。

すなわち，6期間にわたる全体的な学習意欲の推移は，1年夏から2年春にかけて有意に低下し3年春まで低い得点を維持し続け3年秋にさらに低下した後，卒業前に1年夏より高い得点にまで回復することが明らかになった。

② 学習イメージ（図2）

学習イメージについても，測定時期を要因とした繰り返しのある一元配置の分散分析を行ったが，測定時期の主効果は認められなかった（$F(5,240)=2.16$）。その推移は，1年夏から2年春にかけて上昇した後，2年秋に最も大きく落ち込んでいた。その後3年春で上昇した後，3年秋で再び下降するが，卒業前には2年春とほぼ同じレベルまで回復していた。これら各時期間の差をみたところ，1年夏と2年秋（$t(56)=2.13$, $p<.05$），2年春と2年秋（$t(54)=2.54$, $p<.05$），2年春と3年秋（$t(48)=2.11$, $p<.05$），2年秋と卒業前（$t(49)=3.00$, $p<.01$）の間に有意差が認められた。

③ 自尊感情（図3）

5回にわたる自尊感情の平均得点をみると，学習意欲や学習イメージが1学年から2学年にかけて低下しているのに反して，自尊感情は2年秋にわずかな低下はみられるものの学年の進行とともに上昇し続けていた。そして測定時期を一要因とした分析の結果主効果を認めた（$F(4,188)=4.51$, $p<.01$）。差がみられたのは1年夏と3年秋（$t(48)=3.53$, $p<.001$），1年夏と卒業前（$t(49)=3.52$, $p<.001$），2年秋と3年秋（$t(48)=2.69$, $p<.01$），2年秋と卒業前（$t(50)=2.66$, $p<.05$）である。

3．入学動機の及ぼす影響（表3）

① 学習意欲（図4）

強群と弱群に分けた学習意欲得点の推移を示すと，両群には違いのあることが明らかである。すなわち全体的学習意欲は1年夏から時間の経過とともに有意に低下するが，強群の得点は卒業前まで弱群の得点を上回っていた。そこで測定時期と入学動機の強弱の2要因で分散分析を行ったところ，時期，入学動機ともに主効果が認められた（順に，$F(5,235)=3.74$, $p<.01$, $F(1,47)=4.66$, $p<.05$）。その推移をみると両群は時期を追うごとに接近し，1年夏（$t(56)=3.00$, $p<.01$）と3年秋（$t(49)=2.67$, $p<.05$）に強群の学習意欲得点は弱群を有意に上回っていた。

次いで強群，弱群ごとにどの時期の間に差が認められるのかを調べたところ，強群では1年夏と2年春（$t(32)=2.73$, $p<.05$），1年夏と2年秋（$t(33)=2.82$, $p<.01$），1年夏と3年春（$t(29)=2.16$, $p<.05$），1年夏と3年秋（$t(28)=2.42$, $p<.05$），2年春と卒業前（$t(28)=2.08$, $p<0.05$），3年秋と卒業前（$t(28)=2.18$, $p<.05$）に有意な差が認められた。すなわち強群の学生は1年夏から2年春以降にわたって有意に学習意欲が低下していき，卒業前には有意に上昇し回復していることが分かった。それに比べて弱群は，強群のように1年夏から2年春にか

表1　学習意欲・学習イメージ

	質問項目	1年夏 上位 n=12	1年夏 下位 n=18	1年夏 t	2年春 上位 n=11	2年春 下位 n=20	2年春 t
学習意欲	① 非常に興味が湧いてきた	1.17 (0.39)	2.06 (1.11)	3.12 ＊＊	1.19 (0.40)	1.75 (1.07)	2.11 ＊
	② 将来の自分の夢を実現するのにとても意味あることだと思う	4.83 (0.39)	2.61 (0.70)	10.0 ＊＊＊	4.09 (0.82)	2.55 (0.69)	5.55 ＊＊＊
	③ 難しすぎて理解できない	5.00 (0.00)	3.17 (0.96)	9.07 ＊＊＊	4.36 (0.67)	2.95 (0.69)	5.52 ＊＊＊
	④ 授業内容に興味がもてない	3.50 (1.17)	2.72 (0.96)	1.91	3.91 (0.83)	3.25 (0.64)	2.47 ＊
	⑤ 生きていくうえでとても役立つと思う	4.00 (1.13)	2.89 (1.13)	2.63 ＊	4.18 (0.40)	3.35 (0.75)	3.42 ＊＊
	⑥ 友人や家族に教えてあげたい	4.83 (0.39)	3.28 (1.07)	5.61 ＊＊＊	4.36 (0.67)	3.55 (0.89)	2.64 ＊
	⑦ 自分自身で早く実践したい	4.67 (0.65)	2.78 (0.88)	6.36 ＊＊＊	4.27 (0.90)	2.80 (0.95)	4.19 ＊＊＊
	⑧ 現実に役立つとは思えず，勉学意欲が湧かない				4.09 (1.22)	2.45 (0.76)	4.63 ＊＊＊
	⑨ 入学したときより興味がなくなった				4.82 (0.40)	4.00 (0.46)	4.94 ＊＊＊
	⑩ 以前にも増して，看護とは素晴らしい職業だと実感している	4.83 (0.39)	2.83 (0.92)	7.06 ＊＊＊	4.56 (0.69)	3.65 (0.49)	4.22 ＊＊＊
	⑪ 看護婦とは，自分には向いていない職業だと思っている	4.33 (0.89)	2.83 (0.92)	4.42 ＊＊＊	4.09 (0.83)	2.90 (0.64)	4.45 ＊＊＊
	⑫ 看護婦さんへの憧れが強くなった	4.25 (0.75)	2.83 (1.20)	3.63 ＊＊	4.36 (0.67)	2.75 (0.64)	6.60 ＊＊＊
	⑬ 看護婦さんに人間的魅力を感じる	4.00 (1.13)	2.39 (0.76)	4.64 ＊＊＊	3.27 (1.27)	2.05 (0.69)	2.69 ＊
	⑭ 患者さんのことを考えるとやりがいを感じる	4.50 (0.67)	3.22 (0.94)	4.05 ＊＊＊	3.73 (1.19)	2.30 (0.92)	3.71 ＊＊＊
	⑮ 勉強すれば自分にも看護ができそうな気がしている	4.50 (0.52)	2.72 (0.75)	7.11 ＊＊＊	4.00 (0.77)	2.60 (1.05)	3.88 ＊＊＊
	⑯ 患者さんのことを思い出すと辛くなり会いたくないと言う気持ちがある	4.08 (0.90)	2.50 (0.92)	4.65 ＊＊＊	3.55 (1.04)	2.40 (0.76)	3.54 ＊＊
	⑰ 自分が看護婦になるなんて不可能で，程遠い感じでじである	4.83 (0.34)	3.50 (0.79)	6.15 ＊＊＊	4.73 (0.47)	3.75 (0.97)	3.79 ＊＊＊
	⑱ 現場は学校で習っていることと程遠く，勉強する意味が見いだせない	4.67 (0.65)	2.89 (1.18)	5.29 ＊＊＊	4.09 (0.94)	3.00 (1.08)	2.81 ＊＊
	⑲ 労働のきつさを考えると看護婦以外の看護職に就きたい				3.91 (1.14)	3.70 (0.66)	0.56
	⑳ やりがいを感じ，この道を選んだことの満足感が強い				4.55 (0.52)	3.50 (0.61)	4.81 ＊＊＊
	㉑ 看護とは“こんなものか”と失望している				3.45 (1.13)	2.40 (0.60)	2.89 ＊
		上位 n=15	下位 n=16	t	上位 n=16	下位 n=18	t
学習イメージ	① しかたがない	1.40 (0.63)	3.63 (0.89)	8.00 ＊＊＊	1.63 (0.62)	3.17 (0.86)	5.91 ＊＊＊
	② 逃げ出したい	1.07 (0.26)	3.06 (1.12)	6.91 ＊＊＊	1.19 (0.40)	2.56 (0.78)	6.50 ＊＊＊
	③ ファイトが湧く	3.80 (1.01)	2.06 (0.68)	5.64 ＊＊＊	3.25 (0.58)	2.33 (0.69)	4.19 ＊＊＊
	④ 後悔している	1.20 (0.41)	3.19 (1.05)	7.03 ＊＊＊	1.31 (0.48)	2.56 (0.70)	5.93 ＊＊＊
	⑤ しりごみしたい感じである	1.07 (0.26)	3.25 (1.06)	7.96 ＊＊＊	1.25 (0.58)	2.56 (0.86)	5.15 ＊＊＊
	⑥ やりがいを感じる	4.00 (0.85)	2.31 (0.70)	6.06 ＊＊＊	3.63 (0.72)	2.44 (0.86)	4.32 ＊＊＊
	⑦ 辛い	1.80 (0.86)	3.44 (1.09)	4.61 ＊＊＊	1.63 (0.72)	3.28 (0.83)	6.18 ＊＊＊
	⑧ 戸惑いがある	1.67 (0.72)	3.25 (1.34)	4.12 ＊＊＊	1.19 (0.40)	3.22 (1.06)	7.55 ＊＊＊
	⑨ 楽しみである	4.00 (0.93)	2.13 (0.81)	6.02 ＊＊＊	3.63 (0.89)	2.11 (0.90)	4.94 ＊＊＊

＊$p<.05$　＊＊$p<.01$　＊＊＊$p<.001$

の上位下位分析

2 年 秋			3 年 春			3 年 秋			卒 業 前		
上位 n=11	下位 n=23	t	上位 n=17	下位 n=20	t	上位 n=16	下位 n=13	t	上位 n=21	下位 n=16	t
1.18 (0.40)	1.70 (0.82)	2.44 *	2.06 (1.19)	1.06 (0.22)	3.42 *	2.13 (0.89)	1.00 (0.00)	5.08 * * *	1.90 (1.09)	1.44 (0.63)	1.64
4.09 (0.94)	2.65 (0.71)	4.95 * * *	2.53 (0.80)	3.85 (0.81)	4.96 * * *	2.69 (0.70)	3.77 (1.01)	3.39 * *	3.29 (0.85)	3.63 (0.96)	1.14
4.64 (0.50)	3.04 (0.82)	5.87 * * *	2.82 (0.88)	4.00 (0.64)	4.66 * * *	2.88 (0.89)	3.85 (0.99)	2.79 * *	3.29 (0.96)	4.06 (1.00)	2.40 *
3.27 (0.65)	2.96 (0.71)	1.25	2.47 (0.72)	2.76 (0.72)	1.18	2.50 (0.73)	2.23 (0.83)	0.93	2.29 (0.46)	2.50 (0.63)	1.19
4.18 (0.75)	2.96 (1.07)	3.42 * *	2.59 (0.94)	1.75 (0.55)	3.24 * *	2.56 (0.81)	1.69 (0.48)	3.40 * *	2.05 (0.38)	1.88 (0.62)	0.98
4.45 (0.82)	3.70 (0.77)	2.64 *	4.41 (0.80)	4.30 (0.86)	0.41	4.00 (0.89)	4.38 (0.51)	1.38	4.33 (0.58)	4.25 (0.93)	0.31
4.00 (0.77)	3.13 (0.97)	2.60 *	3.71 (1.16)	3.40 (1.19)	0.79	3.44 (0.81)	3.23 (0.83)	0.67	3.67 (0.86)	4.00 (0.89)	1.15
4.27 (0.65)	2.57 (0.84)	5.92 * * *	2.29 (0.92)	3.50 (1.15)	3.48 * *	2.56 (0.81)	3.62 (0.96)	3.20 * *	3.24 (0.89)	4.06 (0.85)	2.84 * *
4.82 (0.40)	3.83 (0.49)	5.18 * * *	2.18 (0.88)	2.15 (0.81)	0.09	2.13 (0.34)	2.23 (0.60)	0.57	1.90 (1.00)	1.50 (0.52)	1.60
4.82 (0.40)	3.26 (1.01)	6.40 * * *	2.59 (1.18)	1.65 (0.67)	2.91 * *	2.56 (1.15)	1.62 (0.65)	2.64 *	1.86 (0.73)	1.57 (0.51)	1.38
4.45 (0.82)	2.43 (0.90)	6.31 * * *	2.71 (0.92)	3.85 (0.75)	4.18 * * *	2.56 (0.89)	3.92 (0.86)	4.15 * * *	3.14 (1.01)	3.94 (1.12)	2.25 *
4.64 (0.67)	2.43 (1.04)	6.40 * * *	3.41 (0.80)	2.40 (0.99)	3.37 * *	3.25 (1.00)	2.08 (0.64)	3.66 * *	2.71 (1.31)	2.13 (0.96)	1.52
3.36 (1.12)	1.78 (0.95)	4.28 * * *	2.06 (0.75)	2.95 (0.94)	3.14 * *	2.31 (0.79)	2.54 (0.97)	0.69	2.48 (1.12)	2.25 (1.06)	0.62
4.27 (0.79)	2.70 (0.88)	5.07 * * *	2.71 (1.05)	3.70 (1.17)	2.69 *	3.19 (1.28)	3.62 (0.96)	1.00	3.24 (0.94)	3.00 (1.37)	0.63
4.27 (0.65)	2.26 (0.81)	7.20 * * *	2.47 (0.94)	3.70 (0.86)	4.13 * * *	2.88 (1.02)	3.67 (0.75)	2.40 *	3.19 (1.03)	3.38 (0.26)	0.49
3.73 (1.01)	2.04 (0.82)	5.18 * * *	2.71 (0.85)	3.55 (0.89)	2.94 * *	2.88 (0.81)	3.46 (1.05)	1.70	2.76 (1.09)	3.81 (0.98)	3.03 * *
4.27 (1.01)	3.78 (1.13)	1.12	2.12 (0.70)	2.10 (0.90)	0.07	1.69 (0.48)	1.85 (1.14)	0.47	1.62 (0.74)	1.81 (0.91)	0.71
4.27 (0.79)	3.43 (1.20)	2.10 *	2.24 (0.97)	2.35 (0.99)	0.35	2.38 (1.09)	2.08 (1.04)	0.75	1.95 (1.12)	2.00 (0.89)	0.14
4.73 (0.65)	3.70 (1.26)	3.15 * *	2.47 (0.94)	3.70 (0.86)	4.13 * * *	2.88 (1.02)	3.69 (0.75)	2.40 *	1.43 (0.60)	1.56 (0.81)	0.58
4.82 (0.60)	3.17 (1.23)	5.23 * * *	2.82 (1.29)	1.90 (0.64)	2.69 *	2.69 (0.87)	1.54 (0.66)	3.92 * * *	2.38 (1.32)	1.75 (0.86)	1.66
4.55 (0.82)	2.09 (0.85)	7.99 * * *	2.53 (0.87)	3.50 (1.00)	3.11 * *	2.50 (0.82)	3.92 (0.76)	4.81 * * *	2.86 (1.28)	3.94 (1.12)	2.68 *
上位 n=20	下位 n=15	t	上位 n=15	下位 n=14	t	上位 n=14	下位 n=18	t	上位 n=22	下位 n=21	t
1.45 (0.60)	3.53 (1.13)	6.50 * * *	1.73 (0.96)	3.43 (0.85)	5.01 * * *	1.36 (0.63)	1.61 (0.98)	0.84	1.22 (0.61)	1.67 (0.97)	1.77
1.40 (0.50)	3.27 (1.16)	5.83 * * *	1.07 (0.26)	2.79 (0.97)	6.39 * * *	2.36 (0.93)	2.22 (0.94)	0.40	2.23 (0.87)	2.14 (0.73)	0.34
3.10 (1.12)	1.67 (0.62)	4.83 * * *	3.67 (0.72)	2.07 (0.73)	5.91 * * *	2.57 (0.94)	1.72 (0.83)	2.72 *	2.14 (0.78)	1.71 (0.64)	0.94
1.35 (0.49)	2.80 (0.86)	5.85 * * *	1.47 (0.52)	2.64 (1.01)	3.91 * * *	2.21 (0.70)	3.22 (0.94)	3.34 * *	2.23 (0.75)	3.19 (0.75)	4.12 * * *
1.45 (0.60)	3.20 (0.77)	7.51 * * *	1.47 (0.64)	3.00 (0.88)	5.41 * * *	1.93 (0.92)	1.83 (0.99)	0.28	1.73 (0.83)	1.90 (0.83)	0.70
3.40 (1.10)	2.13 (0.99)	3.52 * * *	4.00 (0.85)	2.21 (0.80)	5.83 * * *	2.71 (0.91)	1.72 (0.89)	3.08 * *	2.27 (0.94)	1.76 (0.70)	2.02 *
2.20 (1.01)	4.13 (0.99)	5.67 * * *	2.53 (0.92)	3.29 (1.07)	2.04	2.64 (0.63)	3.61 (0.78)	3.78 * * *	2.50 (0.91)	3.76 (0.54)	5.55 * * *
1.55 (0.60)	3.27 (1.22)	5.00 * * *	1.73 (0.70)	3.29 (1027)	4.04 * * *	3.14 (1.23)	3.28 (1.13)	0.32	2.55 (0.80)	2.76 (0.83)	0.87
3.15 (0.99)	1.80 (1.08)	3.84 * * *	3.80 (0.86)	2.07 (0.73)	5.81 * * *	3.07 (1.00)	2.00 (0.97)	3.06 * *	2.23 (0.92)	1.76 (0.54)	2.03 *

表2　学生全体の学習意欲・学習イメージ・自尊感情の平均値

	(例数)	平均得点 (SD)
学習意欲	1年夏 (58)	3.63 (0.66)
	2年春 (56)	3.48 (0.49)
	2年秋 (58)	3.46 (0.62)
	3年春 (54)	3.45 (0.52)
	3年秋 (51)	3.41 (0.56)
	卒業前 (53)	3.68 (0.68)
		F (5,240) =3.72 ***
学習イメージ	1年夏	3.48 (0.82)
	2年春	3.52 (0.64)
	2年秋	3.30 (0.72)
	3年春	3.42 (0.64)
	3年秋	3.36 (0.71)
	卒業前	3.52 (0.57)
		F (5,240) =2.16
自尊感情	1年夏	2.74 (0.61)
	2年春	2.93 (0.66)
	2年秋	2.85 (0.59)
	3年秋	3.03 (0.61)
	卒業前	3.06 (0.62)
		F (4,188) =4.51 **

* p<. 05
** p<. 01
*** p<.001

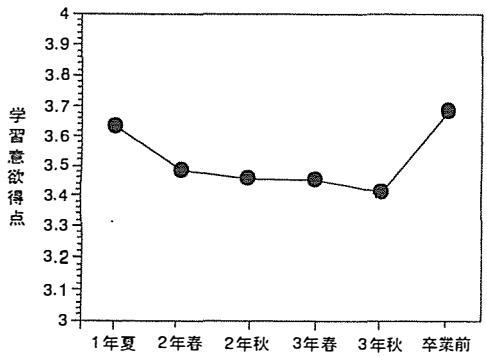


図1　学生全体の縦断的学習意欲

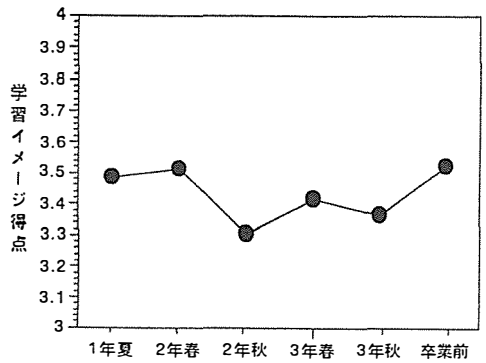


図2　学習全体の縦断的学習イメージ

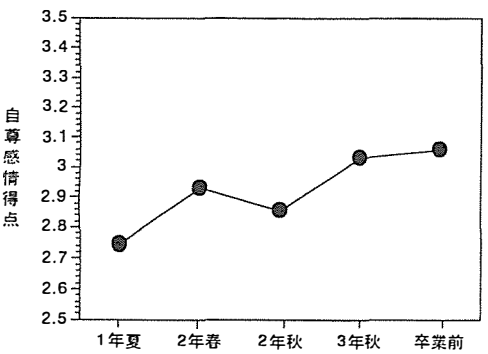
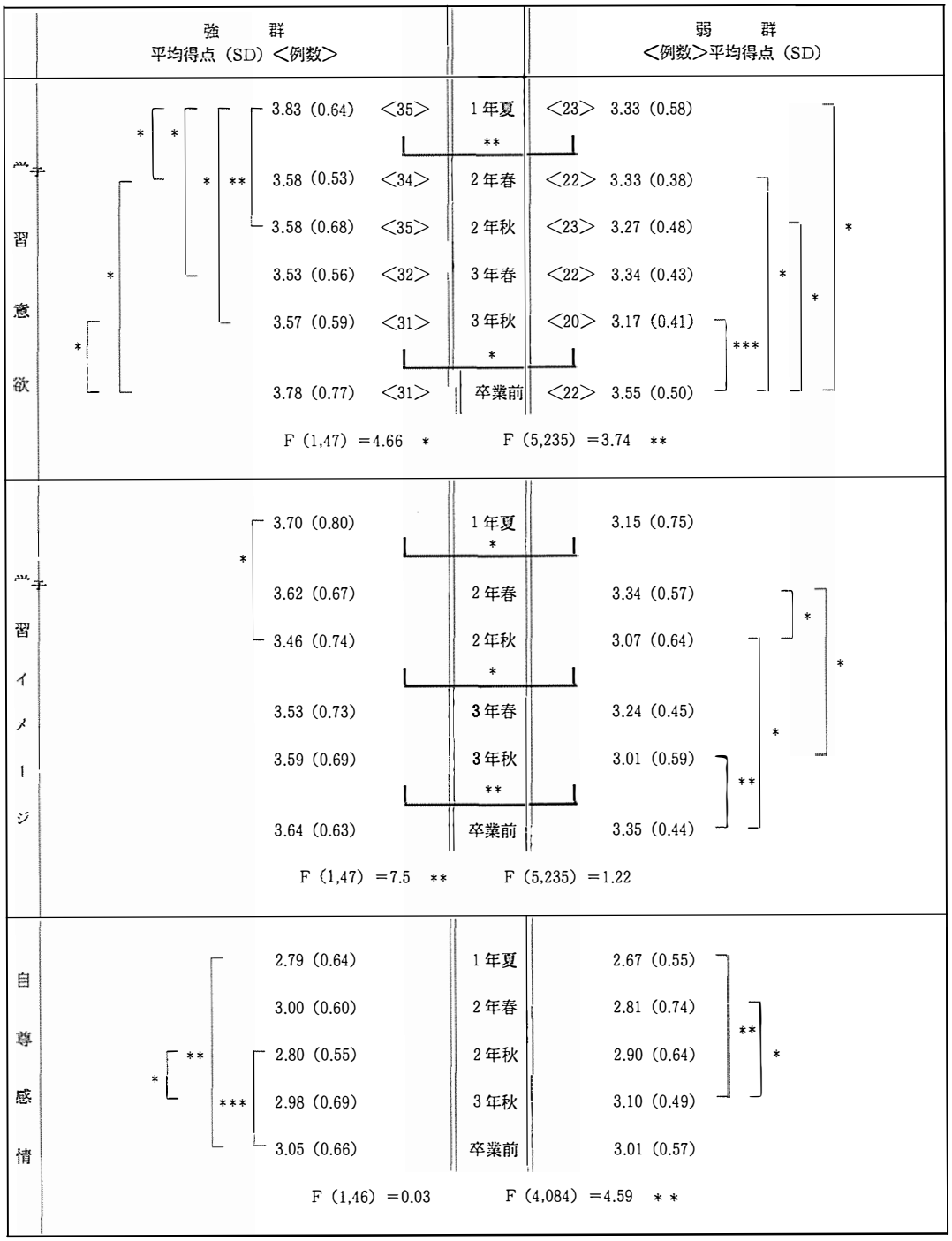


図3　学生全体の縦断的自尊感情

表3　入学動機別にみた学習意欲・学習イメージ・自尊感情の平均値



* p<. 05　　** p<. 01　　*** p<.001

けて急激に落ち込むことはなく，3年春までほぼ同じ得点を維持し，3年秋に大きく低下した後卒業前が最高の得点となっていた。これらの時期間の差をみると，1年夏と卒業前（t（19）＝2.10，p＜.05），2年春と卒業前（t（19）＝2.33，p＜.05），2年秋と卒業前（t（19）＝2.19，p＜.05），3年秋と卒業前（t（18）＝4.14，p＜.001）に有意差が認められた。

したがって1年夏から2年春にかけて全体的な学習意欲の低下は，主として強群の学習意欲の低下に依拠したものであり，3年秋の低下は弱群によるものであることが明らかとなった。

② 学習イメージ（図5）

時期と入学動機の2要因の分散分析を行ったところ，入学動機の主効果は認められた（F（1.47）＝7.5，p＜.01）が，時期については統計的な差異はみとめられなかった。そこで各群毎に対応のあるt検定を行いどの時期間の差が大きいのかをみたところ，強群では1年夏と2年秋（t（33）＝2.18，p＜.05）のみであった。しかし弱群は，2年春と2年秋（t（20）＝2.15，p＜.05），2年春と3年秋（t（18）＝2.60，p＜.05），2年秋と卒業前（t（19）＝2.60，p＜.05），3年秋と卒業前（t（18）＝3.09，p＜.01）といった4期間で有意差がみられた。

つまり，入学動機の相違によって学習イメージをみると，強群は1年夏から2年秋にかけて有意に低下し続けた後，3年春から卒業前にかけては順調に上昇し続けていた。一方弱群の変動は大きく，測定毎に上昇と低下を繰り返し3峰の山と谷間を築くかたちとなっていた。その落ち込みの時期が1年春と2年秋，3年秋にあたり，卒業前が最も高くなっていた。

そして両群間における統計的差異が認められるのは，1年夏（t（56）＝2.65，p＜.05），2年秋（t（56）＝2.05，p＜.05，3年秋（t（49）＝3.16，p＜.01）であった。したがって全体的に学習イメージが低下している2年秋は，両群ともに落ち込んでいるが，3年秋の低下は弱群によるものであった。

③ 自尊感情（図6）

自尊感情は，強群が弱群を絶えず上■るというようなことはなく，入学動機の影響はほとんど見られていない。むしろ弱群は1年夏から順調に自尊感情得点が上昇し続け，卒業前に低下しているのが特徴的である。強群は2年秋で大きな落ち込みを経験した後，以後順

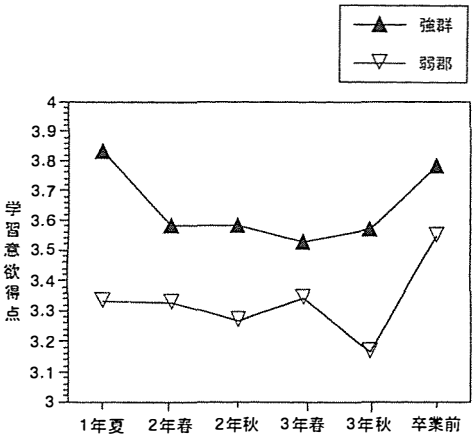


図4 入学動機の強弱別にみた縦断的学習意欲

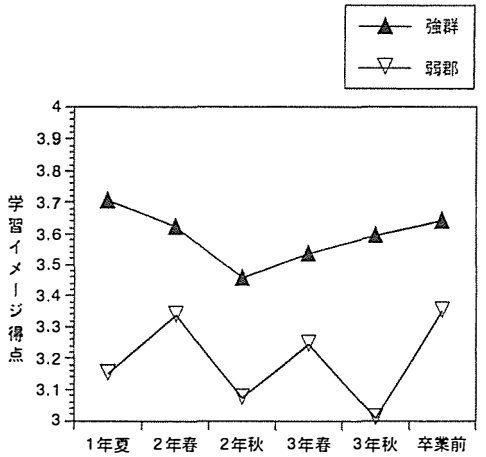


図5 入学動機の強弱別にみた縦断的学習イメージ

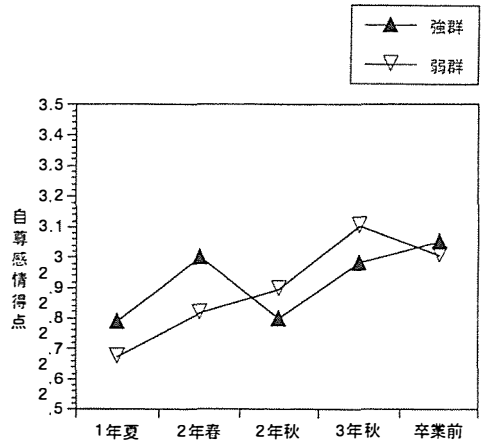


図6 入学動機の強弱別にみた縦断的自尊感情

調に上昇していた。2要因の分散分析の結果，時期の主効果は認められた（F（4,184）=4.59, p<.01）が，入学動機の主効果は認められなかった。そこで各群毎に時期間での統計的な差の確認をしたところ，強群では1年夏と卒業前（t（28）2.97, p<.01），2年秋と3年秋（t（28）=2.34, p<.05），2年秋と卒業前（t（28）=4.13, p<.01）に差が認められた。一方弱群では，1年夏と3年秋（t（19）=2.92, p<.01），2年春と3年秋（t（19）=2.59, p<.05）で差が認められた。

したがって全体的に自尊感情が低下する2年秋は，強群による影響で，弱群が卒業前に落ち込んでいるために上昇が鈍化していることが明らかになった。

4．2年春と3年秋の学習意欲の比較（図7）

これまでの分析は学生全体あるいは入学動機の相違といったグループ全体の特徴をみたものであり，学生個々の変化をみたものではない。学生全体の学習意欲と学習イメージの間に高い相関があることを確認したうえで（r=0.70），学生一人一人の2年春と3年秋の学習意欲得点をプロットして比較した。

その結果入学動機の強弱に関わらず，2年春に学習意欲の高い学生は3年秋にも高い学習意欲であり，得点の低い学生は両時期ともに低い学習意欲を呈していることが分かる。またいずれの時期においても著しく学習意欲が低い3名の学生や，3年秋の方が学習意欲が低下している学生が把握できた。

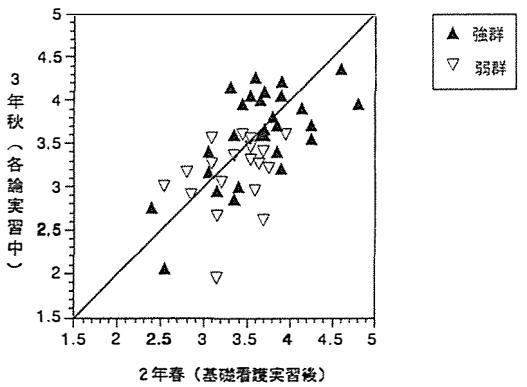


図7　学生個々にみた2年春と3年秋の学習意欲の比較

Ⅳ．考　察

1．全体的学習態度の縦断的推移

看護学生の学習態度は看護職に対する進路適合感のうえに成り立っているという考えの基に，学習意欲と学習イメージ，自尊感情の3つの方向から3年間の変化を縦断的に確認した。その結果学習意欲は，1年夏から2年春にかけて有意に低下した後卒業前に有意に上昇していた。一方，学習イメージは1年夏から2年春にかけてわずかに上昇した後，2年秋で有意に下降し3年春に回復していた。自尊感情は学習意欲や学習イメージのように，1学年から2学年にかけての低下はなく，学年の進行とともに上昇し続けていることが確認できた。

これらの結果をまとめると，学習意欲，学習イメージは2学年が落ち込みの時期にあたるということである。これは従来の様々な尺度を用いて調査されている報告を支持するものであり，かねてより問題としていた本学の1学年から2学年にかけての学習態度の低迷現象が客観的にも実証されたといえる。

測定時期に主効果がみられた学習意欲の推移に注目すると，卒業前が最も高く，ついで1年夏となっている。卒業前の高得点は学生の解放感のあらわれとも解釈されるために除外し，教育課程が進行している期間の結果を実習との関係で考えることとする。

1年次末に経験する基礎看護実習直後の2年春の学習意欲は1年夏より有意に低くなっている。また各論実習の後半期である3年秋も実習前よりわずかな低下を認めている。これらの結果は，筆者が抱いていた“実習が学習への動機付けにつながる”という肯定的な実習観を否定するものである。さらに個々の学生の学習意欲を比較しても，どちらかの実習が学習意欲に肯定的な，あるいは否定的な影響を与えるといった傾向はないことが分かった。つまり基礎看護実習が学習意欲の高揚につながっている学生であるから各論実習でも同様の効果が期待できるとは言い難く，臨床実習という教育方法が全ての学生の学習意欲の高揚にはつながらないことがあきらかになった。したがって，2年次に学習態度が低迷する現象に対して各論実習を2年次から取り入れることで改善されるとは言い難いといえる。

とはいうものの，自尊感情が有意に上昇している1年夏から2年春，2年秋から3年秋という時期はいず

れも実習を経験している時期にあたり，臨床実習が学生の人格的発達には意義ある経験であることは確認できた。

2．入学動機の相違がもたらす影響の度合い

入学動機の相違によって3年間の推移を詳細に分析してみると，学習意欲における大きな落ち込みの時期である2年春は強群によるもので，3年秋は弱群の変化に依拠したものであることが確認された。また学習イメージは学習意欲に比べて変動が大きいが，それは主として弱群によってもたらされており，強群は2年秋で大きくイメージが落ち込んでいるがその後順調に回復していることが明らかになった。つまり入学動機の相違による影響は学習意欲，学習イメージにおいて長期間に及んでいた。これは入学動機の強弱によって必要とされる教育支援の時期や内容が異なることを示唆している。

ちなみに強群の推移をみると，学習意欲，学習イメージともに1学年から2学年にかけて低下した後，3年次の各論実習をとおして上昇している。つまり従来より指摘されているように，2年次が必然的な職業意識の低下の時期にあたり，それらをとおして職業意識が芽生えていくという現象はあくまでも強い入学動機をもつ学生に限るといえる。したがって強群に対して教育支援が必要な時期は1年次から2年次であり，彼等が現実直視をとおして自己の適合感に悩む渦中にあることを理解すべきである。そして彼らがどのような理想と現実とのギャップのなかで自己の適性を考えているのかの確認が教育的な支援と考える。

一方，弱群にはこうした現象は認められず従来とは異なった職業意識の形成過程をたどることが明らかにされた。すなわち彼らの学習意欲は1学年，2学年とほとんど変化がみられず，各論実習中が最も落ち込み強群とは対照的であった。中村ら[15]は，心身ともに辛く厳しい実習時期が進路選択に対する評価が著しく落ち込むと述べているが，こうした現象が認められるのは弱群の学生に限られていた。そもそも実習現場は絶えず学生に自己の職業適性を問い，職業的同一性の獲得を迫る場である。彼らが3年秋という各論実習中に最も落ち込んでいるということは，この時期が彼らにとっての同一性の危機的状況といえる。したがって，彼らには入学直後より，看護を学ぶ意味を自分自身に問いかけながら学習する機会を絶えず与えていくことが必要である。そうした準備が実習による危機の克服につながると考える。また，学生にとって各論実習とは波多野ら[8]が指摘しているように，学生が看護婦を役割モデルとして模倣しながら職業同一性を形成していく意味を持つ。したがって，彼らの実習適応の状況を適確に把握していきながら，彼らが“役割モデル”と認識できるような教員や臨床スタッフの姿と，学生自身が実践の手応を感じる実習体験が重要と考える。

これまでにも看護職志望動機の強弱といった点が，学生の学校適応状況や進路適合観に強い影響を与えているという研究は多くみられている[16][17]。その一方で，田上[18]は，「不本意な入学」という志望態度は入学初期の意欲喪失にとどまると報告しており，入学動機の影響に関する知見は錯綜していた。その点からも今回，縦断的に明らかにされた本研究の入学動機の影響に関する知見は，今後の学生理解において意義ある結果と考える。

最後に注目すべき点は，自尊感情が入学動機の影響を受けていない点である。片山ら[19]は，入学動機と臨床実習のやる気を分析し，学習に対する目的意識が不明確な学生は消極的な実習をすると報告している。また梶谷ら[20]は，学生の自尊感情が実習による影響を受けていることを明らかにしている。筆者も入学動機の弱い学生は消極的な学習行動をとることで挫折感を経験しやすく，否定的な自己評価を下すと懸念していた。しかし，学習意欲や学習イメージが低下している実習時期においても自尊感情は順調に高まっていた。これは，他律的な入学動機を持って入学し，自己の不確実さを抱えながら学習していても，自己概念を脅かすまでには至っていないということだといえる。

V．結　　語

公立短大の看護学科（3年課程）の1993年度生58名を対象に，学習意欲，学習イメージ，自尊感情の変化を，入学当初から卒業直前まで縦断的に調査し，入学動機の相違がもたらす影響と，臨床実習の学習効果をみたところ次の点が明らかになった。

1．学生の全体的な変化をみると，学習意欲は1年次から2年次にかけて低下し続け，卒業前に1年次を大きく上回っていた。学習イメージは2年次後期に大きく落ち込んだ後，卒業前に1年次のレベルにまで回復していた。自尊感情は学年の進行とともに順調に高まっ

ていた。

2．入学動機の影響は学習意欲と学習イメージにおいて認められたが，自尊感情ではその影響はなかった。

3．入学動機の強い学生は学習意欲，学習イメージともに3年間にわたって弱い学生より高い傾向にあり，1年次と3年次の実習中に両群間で有意差が認められた。

4．強い入学動機をもつ学生の学習意欲は1年次が最も高く，基礎看護実習直後より低迷状態が持続し，各論実習中の3年次後半からやや上昇して卒業前に一気に回復していた。一方，入学動機の弱い学生が最も学習意欲が低下する時期は，3年次の各論実習中であり，いずれにおいても実習による影響の大きさが伺えた。

5．学生個々に，基礎看護実習後と各論実習中の学習意欲を比較したところ，どちらかの実習が学習意欲に肯定的な影響を及ぼすとか，否定的な影響を与えているといった一連の傾向は認められなかった。

6．強群と弱群とでは学習意欲や学習イメージが低下する時期が異なり，それぞれの学生が危機に陥る時期やその意味を理解したうえで指導していく必要性が示唆された。

VI. 謝　辞

3年間にわたる本調査にご協力いただいた学生の方々と，本文をまとめるにあたりご指導いただいた福井大学教育学部梅澤章男教授に心より感謝いたします。

要　約

本研究は，3年課程看護短期大学生58名の学習意欲，学習イメージ，および自尊感情の縦断的変容の実態を明らかにしたうえで，入学動機の相違が及ぼす影響と，臨床実習の効果をあきらかにするために調査した研究である。

その結果，以下の結果が得られた。

1．全体的な変化は，学習意欲，学習イメージは1年次から2年次にかけて低下する。その後卒業前に一気に1年次以上にまで回復する。自尊感情は，学年の進行とともに順調に高まっていた。

2．入学動機の影響は3年間にわたって学習意欲と学習イメージでは認められ，強い動機をもつ学生のほうが動機の弱い学生より高い状態が持続していた。自尊感情においてはその影響は全く認められなかった。

3．入学動機の強弱毎に学習意欲が低下する時期をみると，動機の強い学生は2年春の基礎看護実習直後であり，弱い入学動機をもつ学生は3年秋の各論実習中であった。

4．学生個々に基礎看護実習後と各論実習中の学習意欲を比較すると，どちらかの実習が学習意欲の高揚につながるという傾向は認められなかった。

Abstract

The purpose of this longitudinal study was to investigate changes in the 'learning motivation', 'learning image', and 'self-esteem' of nursing students over a period of three years. The subjects consisted of 58 students enrolled in a three-year program at a Junior Nursing College.

Results :

1. Overall, 'learning motivation' and 'learning image' were found to have declined during the first to second year period, but then showed a steady increase all the way

わが国の保健医療領域における行動科学研究の最新版！

最新刊

医療倫理と行動科学

ISBN4-8392-0527-2

日本保健医療行動科学会年報 1998 Vol.13

●A5判　304頁
定価3,675円(本体3,500円)

編集／日本保健医療行動科学会

■特　徴

◆医療倫理と行動科学をテーマに，倫理的判断の原理とされる自己決定をめぐる論稿を収載した。欧米人のそれと比較すると対蹠的な特徴をもつ日本人の行動様式や判断基準の特異性，医師の権威性も高いという状況の中で，患者の自己決定はどのようにして可能になるのか。患者・医療者それぞれの立場から患者ー医療者関係の現状の問題をとらえ，自己決定のプロセス，望まれる患者関係ー医療者モデルを考察・提言する医療関係者必読の書。その他，保健医療領域における行動科学的研究の最新の動向を示す原著論文を多数収載。日本保健医療行動科学会年報の第１３号。

■目　次

Ⅰ　中川米造先生追悼特集

Ⅱ　＜焦点＞　医療倫理と行動科学ー自己決定をめぐって

1.何が日本人の行動を決めるのか
2.医療倫理と意思決定
3.人権としての自己決定権
4.インフォームドコンセントにおける理解と納得
5.医師の行動と倫理的問題
6.自己決定権の尊重と自立支援の医療
7.介護保険の導入を控え，保健・医療との連携を考える
8.ターミナルケアと自己決定
9.臓器移植と自己決定権

Ⅲ　原著論文

Ⅳ　総説

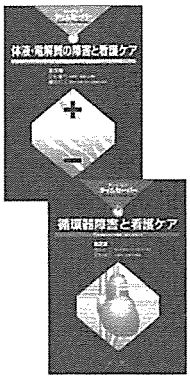
Ⅴ　研究ノート

Ⅵ　鍵概念

Ⅶ　学会・研究会報告

株式会社 メヂカルフレンド社
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-4 ☎(03)3263-7666 FAX(03)3261-6602 振替00100-0-114708
E-mail mfeigyou@mb.infoweb.ne.jp　http://web.infoweb.ne.jp/medical-friend/

▼ 南江堂の新シリーズ！　最小の時間で効率よく知識を身につけるのに最適



ナーシング タイムセーバー

★臨床ナースが，限られた時間の中で，いかに効率的に知識を習得できるか（Nursing TimeSavers）をモットーとして編集された実践マニュアルです．★各種障害に対して，どう看護過程を展開していくべきか，主訴のとらえ方，病態のモニターの仕方などを要領よく解説．★さらに，おのおのの疾患について，アセスメント・看護診断・計画・実施・評価の各ステップごとに，何を知っておくべきかを，イラストやチャートを効果的に用いて的確に解説しました．理解を助ける2色刷です．

体液・電解質の障害と看護ケア　訳●足利幸乃・櫻井利江　A5判／254頁　定価（本体3,500円十税）

循環器障害と看護ケア　訳●櫻井利江・足利幸乃　A5判／342頁　定価（本体3,800円十税）

以下続刊▶「呼吸器系の障害」「免疫・感染系の障害」

▼ 一歩進んだケアをサポート 南江堂の最新看護書籍

スキンケア 基本的知識から失禁・褥創・ストーマまで

編集●高屋通子・徳永恵子　B5判／132頁　定価（本体2,000円十税）

高齢化社会を背景に，看護・介護の現場で大きな課題となっているストーマ，尿・便失禁，瘻孔・褥創のスキンケアについて，その基礎知識から予防のノウハウ，起こったときのアセスメント，解決のしかたを最新の知見とともにわかりやすく解説しました．

Evidence-Based Nursing 看護実践の根拠を問う

編集●小松浩子・菱沼典子　B5判／214頁　定価（本体3,000円十税）

看護ケアの科学的な拠り所と，それらの根拠を応用した実践的なアプローチを呈示しました．臨床の場で蓄積されてきた看護ケアの経験的な知と技を科学的な看護知識として体系化しようと試みた本書は，より質の高い看護をめざして，看護学と臨床看護の発展に努める研究・教育者，臨床スタッフ必読の書です．

これでわかる心電図の読み方と心臓病

著●清野精彦　AB判／150頁　定価（本体2,500円十税）

わかりやすく，しかし必要なことは省略せず，かつ正確に，を編集方針として，心臓の働きから心電図・基本波形の基礎知識，不整脈・虚血性心疾患・心臓ペーシングの心電図の実際まで，心電図の読み方を病態・治療法と結びつけて解説しました．CCU・ICUから一般病棟・外来まで，心電図を正しく十分にマスターしたいナースのための最新テキストです．

フレッシュナース必携

臨床看護実践マニュアル 内科編

編集●井部俊子・佐藤エキ子　B6判／574頁　定価（本体4,600円十税）

疾患や症候のみかたから，癌・終末期患者のケア，与薬の知識，看護援助技術のコツ，コミュニケーションスキルなど，実際の看護に必要な課題をもれなくカバーしました．とくに看護の視点にもとづいた疾患や症候のみかたや的確なアクションの解説は，具体的で実践的なものとなっています．

読み方つき医学・看護略語辞典

新書判／392頁　定価（本体2,500円十税）

略語には読み方を，漢字にはふり仮名をつけた実用本位のポケッタブルな略語辞典です．カルテおよびその他の臨床記録，臨床現場でドクターやナースが頻繁に用いる略語を中心に，医学・看護関連略語約7,700語を収載しました．読み方に迷ったとき，耳から聞いてわからないとき，本書が傍にあれば疑問はすぐに解決できます．

nkd 南江堂
〒113-8410　東京都文京区本郷三丁目42-6
Tel. 03-3811-7239 Fax. 03-3811-7230（営業）

第　23　回

日本看護研究学会学術集会

講　演　記　事　（3）

平成9年7月24日（木）・25日（金）

会　長　　河　合　千恵子

於　久留米市石橋文化センター
〒830　久留米市野中町1015
TEL　0942－33－2271

◆教育講演◆

統計処理の問題点

— 誤用のはなし —

久留米大学医学部看護学科
栗谷典量

医学関連の統計学には誤りが多く信頼できるものは少ない，と統計学の専門家達からの評価は極めて手厳しい。かつて医系月刊誌「日経メディカル」でこの点について，“統計手法が泣く医学論文の実際”という見出しで「誤解が乱用を生む統計の泥縄式利用」といかにも侘しいサブタイトル付きの厳しい批判記事が掲載されたことがある。

即ちほとんどの統計を利用した医学系論文には，大なり小なり何らかの誤りを指摘できると言うのである。統計の誤りを指摘する記事や書籍は少なくないが，事態の改善傾向は一向に伺えそうにない。

こうしたことから実情把握のため，ある医学会誌1年分295論文について統計処理，手法のチェックを試みたことがある。結果は「多くの論文に誤りがある」とする月刊誌の指摘に誤りはなかったようである。記事は「根本的な解決には医学部の統計学の学習のあり方を見直す以外にはなさそうだ」と結ばれていた。

このような医学分野の実情からみて，当然看護学分野の実情が気になってくる。

今回，日本看護研究学会学術集会の開催に当たり，“統計処理の問題点”についての学習がテーマとなったのでその資料として「第23回日本看護研究学会」の要旨，全284題[1]のチェックを行ってみた。

その結果は先に述べた医学会誌295論文の場合よりさらに多くの問題点が認められた。問題点の多くは統計の基礎の学習不足のための誤りであった。これらの誤りは演者だけが原因と思われるものだけでなく，なかには指導者の誤解や学習不足が原因と思われる誤りもあったようである。指導者も誤用の原因ではないかと考えるようになったのは，異なる演者が同じ誤りを犯し，同じ誤りを犯した複数の演者の指導者が同一人であったりしたことがあったからである。

日本看護研究学会学術集会・内容要旨を見て

研究報告書，レポートの記載に当たり，研究対象の例数（データ数，n）は，報告書の初めの部分に記載するのが普通である。学会の予行集でも同様に実験例数は文の先頭部分に示される重要な情報である。ところが研究法の説明で実験例数nに触れることなく，いきなり，結果の説明に進んでいる例をみることがある。また，nぬきレポートでよく見かけるさらに具合の悪い困ったパターンとして，データの説明で実数（例数，頻度）を示さないまま，パーセント表現だけで処理にかかっているのがある。結果の表現をパーセントだけで示すのは単に不親切であるばかりでなく，非科学的である。なぜパーセント表現だけで示すのがよくないのか，その理由について説明を加えておく。パーセント値だけでの説明の欠点はパーセント値の算出の基礎となったデータ数が無視されてしまった点である。すなわち10人に1人と，100人に10人の場合のいづれの場合も，10パーセントと同値であるが，この二種類の10パーセントでは統計的価値が著しく異なる点が無視されているのである。この二つの10パーセントの，95%信頼区間は0.25～44.50%と，4.90～17.62%であり，その信頼性には，格段の差が認められる。また，パーセントは相対的割合いの表現には適しているが，直接数量・頻度を表現するのには適しない。そのためパーセント値だけのデータからは統計的検定は不可能である。この場合，パーセントを一旦数値（頻度）に還元した後，改めて検定を行う方法しか手はない。したがって読む人，聞く人に錯覚を起こさせ誤解されることを期待したやり方で，「統計で嘘をつく法」

の常套手段として利用された来た。

どうしてもパーセントを書いておきたい場合は，分子／分母（%）とパーセントを括弧に入れて実数値の後に付記しておくのがよい。

このパーセント乱用の現況の確認のため，講演要旨集の見直しを一度試してみられることをお薦めしておく。いかにパーセントだけで表現された資料が多いか。このことは文章の場合だけの話ではなく，表・■でも同様である。グラフの場合，特に円グラフにはパーセントだけの表現が多いことが知られている。さらにグラフで数多く見られる代表的非科学的表現法として，Y軸にパーセント目盛りを入れて，データ数を記載しないヒストグラムがある。

読者に詳細（正確）に内容を知られたくないときに，この方法は好都合らしい？

参考文献1）で見られる誤用の多くが，統計の基礎レベルの次元の問題である。

ほんの一部ではあるが，データを確率論の立場から観察する態度が全く見られない演題が紛れ込んでいたのは驚きであったが，こうした統計無視の演題が学会，学術集会と名の付く会からは早急になくして戴きたいものである。このレベルの演題は申し込みの段階で処理可能の問題だろう。登録されている演題のなかには全く基礎を学んだ経験のない人が統計処理を行ったと見られる演題もある。そのため用語の基本を理解していない人もいる。実例をあげておく。

母集団：［population］標本抽出の母体となる統計集団のことであるが，多くの初心者が症例数のことと勘違いして使っている。

頻度：［frequency］出現度数のことで，必ず整数で表現される。出現率と混同して用いられ，パーセント表現されたものもあるが，これでは頻度にならない。副作用の程度の説明を頻度で言うとき，30症例中6例の場合は，頻度6である。これを副作用率で言うときは20.0%と表現することになる。この場合10症例で2人の場合も20.0%と同率になるが，率だけの表示の場合はこれが区別できない。

カイ二乗検定は頻度からしか算出できない。

スコアー：本来の意味は点数，評価点で構わないのだが特にここに取り上げた訳は，医学の分野で，誤用されることが非常に多い用語である。しかも誤用であることに気づかず平然と使い続けられるこわい誤用である。これは平均値に属する話であるが，平均値の計算は容易であるが，データ群を代表する値として優れた統計量である。しかしデータの種類によって使える平均値と，使えない平均値があることを知っておく必要がある。そのためには先ず，データの種類による分類法を理解しておかねばならない。分類はⅠ．計数値①名義尺度，②順序尺度。Ⅱ．計量値③間隔尺度，④比率尺度の4種類に分類される。平均値が使えるのはⅡ計量値③④だけである。データの性質から考えて，名義尺度に対して番号を振り当て，その番号の平均値を求めても意味がないことは，直感的にも理解できる。ここで最も注意を要するのは順序尺度に対して平均値を求める誤りである。臨床症状の程度（症状なし，軽い症状，重症，…）や，治療効果の程度（治癒，著効，軽度改善，…）を表現するのに，患者の状態をスコアーと称するデータに置き換えて統計処理にかかるとき，あたかも計量値であるかのような錯覚に陥り，平均値，SD，t検定，相関係数と何のためらいもなく誤用に走りだす。平均値に意味がある尺度は計量値だけで，名義尺度，順序尺度には使えないことの認識は失われている。ここで甚だしい誤用例を紹介しておく。名義尺度の数値化と称し，眠気1点，下痢または嘔吐2点，めまい3点，GOT上昇4点などと副作用のスコアーの配点表を適宜作り，t検定を行うという比較原理である。日ごろ遭遇するこの種の誤用例のパターンとして

症状の程度：スコアー	
症状　なし：	0点
軽い　症状：	1点
重い　症状：	2点
死　　亡：	3点

があげられる。この場合スコアーを，0点，1点，2点…としないで－，±，＋，或いはA，B，C，…甲，乙，丙，…などの記号で表現してもいっこうに差し支えないのである。もしこの場合，記号を使用していたら記号の平均値±標準偏差などの算出の発想は思いつかなかっただろう。それを1，2，3点としたものだから一見，計量値らしく見えるようになる。もし計量値であれば0，1，2，のそれぞれの数値間の間隔はすべて等間隔でなければならず，症状なしと軽い症状

の差1点と，重い症状と死亡の差1点は同等でなければならないことになる。また，軽い症状3人は死亡1人に匹敵することになる。平均値±標準偏差，t検定が適用できるのは，各データ間の等間隔性が保証されて初めて有効で，その保証がない限り平均値には意味がないのである。

この種の誤りの実例は，質問紙による調査・意識調査などの回答分析の際にも多発している。今回の演題発表をみてもいくつか実例が見られる。一般に意識調査の回答には，「1はい，2わからない，3いいえ」，「1悪い，2どちらかと言えば悪い，3どちらとも言えない，4どちらかと言えばよい，5よい」のような順序尺度が使われることが多い。この種のデータの尺度分類は明らかに順序尺度であるから，これには順位検定を適用するのが最適で，t検定の適用は好ましくない（厳密には誤用である）ことをよく理解しておいてほしい。

終わりに：

論文に統計を適用するときは，細心の注意を払って誤用のないよう処理する習慣をつけておきたい。次の文献2）－4）は筆者が公開されている実例の資料をチェックして誤用に注意を要する問題点と判断，メモしたものである。

参考文献

1）日本看護研究学会雑誌：Vol. 20, No. 3

2）栗谷典量：医学統計入門講座，(1), (2), (3), 日経メディカル，21：117-180：179-181：1992，及び22：133-135，1993

3）栗谷典量：医学統計処理の問題点：日本生理学会誌，58（3, 4, 7, 10），127-132：175-182：307-320：377-384，1996

4）栗谷典量：医学統計の誤り1．“なぜいけない？”“どこがわるい？”
小児内科 Vol. 28,（7, 8, 9, 11），1001-1006：1141-1147：1291-1300：1685-1691，1996
小児内科 Vol. 29,（1, 5, 6, 8, 9），133-138：761-767：883-887：1169-1177：1329-1336，1997

日本看護研究学会会報
第 50 号
（平成10年９月20日発行）
日本看護研究学会事務局

目　次

第24回日本看護研究学会学術集会を終えて …… 1
第24回日本看護研究学会印象記 …… 2
第24回日本看護研究学会印象記 …… 4
第25回日本看護研究学会学術集会の開催を前にして …… 5

第24回日本看護研究学会学術集会を終えて

弘前大学教育学部　大　串　靖　子

去る７月30日，31日の両日，学術集会を無事に終了することができました。ご参加くださった皆様，協賛くださった各関係■体の皆様に厚くお礼申し上げます。

会務報告は別にいたしますので，ここでは学術集会の運営に当たっての裏話を少しご披露したいと思います。

弘前で本学会開催をお引受けしたのはこれで５回目でありまして，学会の準備や運営については，スタッフにある程度の経験の蓄積がありました。しかし問題は演題数の増加に見合う会場の確保でした。319題の演題を69群に分けて，２日間の時間の中に当てはめるには10会場が必要でした。参加者は演題数から計算して約1,000名を見込みましたので，特別講演のような場合にこの人数が一同に集まることのできる大ホールが必要であり，しかも暑い季節，クーラーの効いた場所となりますが，これらの条件を一カ所で満たす場所が弘前にはないのです。やむなく２カ所での開催となり，つぎの問題としてこの２カ所を移動することに伴う参加者の負担をどのようにしたら軽減できるかということでした。その結果は１日ずつ会場を別にするということになり，１日目は主に講演，２日目は一般演題ということになりました。また，２日目７会場になりますが，それでも会場に入りきれないところがあるので，参加者が分散できるように教育講演を組み込みました。

会場の確保が困難ということに関連して，プログラム編成のうえでも影響がでておりました。ひとつは発表，質疑討論の時間が７分，３分で，これは従来と同じなのですが，十分討論できなかったという声が寄せられております。会場数がもっととれれば一題の時間に余裕ができる

ものと思います。また，口演と示説との分類についてですが，ご希望どうりにならない方もあり，準備について変更しなければならず■られた方や示説になったことについてご不満のあった方がおありでした。

また，会場については洋式トイレがなく，両膝がご不自由な方がホテルまで帰らなければならなかったということを後でお知らせくださり，配慮の至らなかったことを後悔しております。地方都市として，また学都として行政機関への提言が必要と思われました。

会場の問題を離れてプログラムの内容について，講演では，特別講演，教育講演ともご満足いただけたのではないかと自己評価いたしております。今回は海外からの招へい講演を，あらゆる意味で余裕がなく企画できませんでしたので，この点について不足に思われた方もおありかと思いますが，自己弁護しますと，看護実践なり，看護研究のために実質的に明日からでも役立つ，また教育講演の村上善男先生のお話のように，役立つと言う次元ではないけれども，実感に響く学術集会をめざしたかったというのが本心でありました。

一般演題については年々増加の一途であり，300題は予想できましたが，中には同一研究グループのサブテーマだけ異なるもので8題申し込まれた方もあり，しかも締切を過ぎて強引に申し込まれたものであり，プログラム編成上の難題でした。また抄録原稿についての規定をお守りにならなかった方が少なくありませんでした。本学術集会は査読はしませんでしたので，原稿の書き方だけ修正をお願いしました。こういうことから学会発表のマナーと言う点で考えさせられるものがありました。

苦情を申しましたが，それ以上の何倍も，最初に述べましたようにご参加くださった皆様，ご指導くださった先生方，ご理解くださり協賛に応じて下さいました皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。スタッフを含め私自身，多くの学びの経験をさせていただきました。これをまた本学会へ還元できるようにしたいと思います。

学術集会を終えて，お礼のご挨拶といたします。

第24回日本看護研究学会印象記

■南女学院大学保健福祉学部　小　■　正　枝

気温22℃。猛暑の九州から青森空港におりたっての第一の驚きはクーラーの効いた部屋に入ったような涼しさでした。第二は北欧のエスキルストナを思わせる自然を生かした緑の美しさでした。この快適な環境の中で日本看護研究学会学術集会が行われました。学術集会は，弘前大学教育学部の大串靖子教授を会長として弘前市民会館および弘前文化センターにおいて開催されました。

会長講演は,「看護研究における研究支援体制の模索」と題して会長ご自身が研究に取り組んで来られた中から,また看護学という広い視野にたっての問題提起がありました。「看護研究」の本質を大切にしながら研究を発展させるという方向性をも示してくださいました。大串先生の学問に対する真摯な姿勢に感銘し,印象に残る講演でした。

シンポジウムは,「臨床における看護研究の教育的サポート」と題し,4名のシンポジストが指導的立場から発言されました。臨床での看護研究への取組みについての現況報告が主でしたが,東北大学医学部附属病院の林氏による研究活動の阻害因子の検討は,研究に対するひたむきさを感じました。また,フロアー(看護士)から研究と「看護の本質」についての質問がだされましたが,「看護(研究)を探求しつづける中で答えはでるのではないか」とする塩飽氏の発言はうなづけるものでした。

教育講演は3題用意されていました。私はその中の一つ「家族看護学の基本的視座－－単位としての家族を看護するということ－」を聴講しました。看護が捉える家族について,家族は常に発達している,相互に影響しあう,集団としてストレスに対処する,および総和以上のものであることを話されました。渡辺裕子講師の実践に裏付けされた説明を解りやすく聞かせていただきました。看護学の体系に新たに家族看護学が位置づけられましたが,この側面の大事さを実感させられました。今も渡辺氏のいわれた“家族看護には看護の醍醐味がちりばめられている”と言う言葉が私の脳裏に焼き付いています。

一般演題の発表は2日目に集中的におこなわれました。319題の一般演題が10会場,69群に分かれて発表されました。プログラムの編成はさぞ大変だったろうと敬意を表したいと思います。それにしても319題という研究テーマ数の多さは看護学高等教育への渇望,そして臨床側と教育側の研究活動の連携の効果といえないでしょうか。ひとつ残念なのは,発表をきいて思ったのですが,演題数の増加のためか質疑応答の時間が短く十分な討議ができていないことです。研究の質と量の双方を満たす発表の方法は現状では限界なのでしょうか。

学会終了後,ねぷた祭りの前夜祭を見ようと野島先生をはじめ5人のメンバーで黒石まで,ねぷたの追っかけをしました。これは学会の副産物として楽しい思い出になりました。最後になりましたが,大串会長をはじめ企画運営にあたられた方々に心より感謝いたします。

(平成10年8月2日記)

第24回日本看護研究学会印象記

熊本大学教育学部　水　上　明　子

第24回学術集会は，春夏秋の季節の花が一斉に咲きそろった観のある弘前市で平成10年７月30日，31日の両日開催された。

一般演題は69群319題におよび10会場で意見交換が行われた。年々増加する演題数と多領域職種の方々の参加を目の当りにして，本学会の躍進を実感し感慨深い２日間であった。このような感慨は，学術集会のテーマが「看護教育における臨床と教育の連携」であったこと，会長は本学会の母体四大学協議会のひとつである弘前大学教育学部の大串靖子教授であったためと思う。会長講演演題は「看護研究における研究支援体制の模索」で，大串会長は，看護研究志向の歴史，研究の継続性と研究を発展させるための支援体制の必要を真摯に問いかけられた。この会長講演は，恩師山元重光教授（第三回会長）の学会誌創刊号における「看護研究にのぞみたいこと」の提案と重なり，同じ四大学教育学部の一員として創立当初からの経緯を知る私には特に感慨深く印象に残った。そして，看護学の発展を願って発足した本学会の歴史と意義・役割を改めて考えさせられた。シンポジウムは，テーマを受けて「臨床における看護研究の教育的サポート」と題し，４名のシンポジストにより展開された。臨床看護の現場から臨床での看護研究の取り組み・現況・課題について，教育現場からは研究活動をサポートする立場での提言があり，看護実践の場における研究の今後の課題が提示された。さらに，看護研究に関しては，千葉大学名誉教授吉武香代子先生の「看護研究－今とむかし」の教育講演があった。先生ご自身の学究の歩みに重ねたわが国における看護研究の歴史と現代の研究の問題を看破した明快で迫力に満ちた語り口は胸のすくような爽快さで参加者一同深い感銘をうけた。同時に，今学会のテーマがみえた気がした。

その他，青森県教育庁文化課岡田康博氏のスライドを駆使した特別講演「豊かなる縄文文化－三内丸山遺跡」では，縁遠いと思っていた縄文人の自然と共存した生活に目を見張り現在への多くのメッセージを読みとることができた。また，教育講演の家族看護研究所渡辺裕子氏の「家族看護学の基本的視座」は文字通り時宜を得た基本的講演であり，美術家弘前大学名誉教授村上善男氏の「“絵をみること，絵を読むこと”－わたしたちの感性を磨くために」は改めて感性について考えさせられる講演であった。

今年は，各講演を拝聴したために，残念ながら一般演題発表にはあまり参加できなかったが，例年の大学，短大，実践センターの演題に加え他職種間や臨床との共同研究も多く本学会の特徴がうかがえた。また，参加者は1,200余人ということで，メイン会場を除くとどの会場も立ち見参加が多く通路も混み合う盛況であった。感慨を胸に今学会のテーマが成就すること，本学会の益々の発展を祈念し帰途についた。

最後に，会長をはじめ本会の運営にたずさわられた方々に心より感謝いたします。

第25回日本看護研究学会学術集会の開催を前にして

聖隷クリストファー看護大学　田　島　桂　子

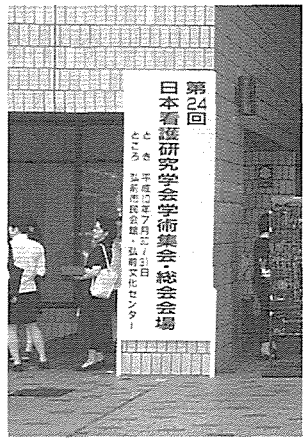
日本看護研究学会は，来年第25回の学術集会を迎えることになりました。来年は本学会がもつ四半世紀の歴史の重みを背景に，21世紀を直前にして20世紀のまとめと新しい時代への準備を視野に入れた学術集会が求められているように思います。

このような時期に学術集会をお引受けすることになり，その任の重さを感じざるを得ませんが，次代に向けて一歩でも前進できるきっかけを作ることができればと願っております。

20世紀は，世界史的にみてさまざまな面で画期的な進展をみた世紀といえましょう。わが国の「看護」の発展状況を振り返れば，科学技術・医療の進展や看護の先進国といえる米国の看護動向にかなりの影響を受けて今日があるように思います。その一方で20世紀の進展がもたらした高度医療と医療費の高騰，高齢社会の到来，経済問題などに対応するための方策をわが国の土壌のなかで考え，それに基づく看護実践が，新しい世紀の看護職に求められることになるのでしょう。

その意味で，今回のメインテーマは「次代を拓く看護の力ー自立・変革・連携」として，看護職者の自立・変革・連携に関わる内容を多面的に論議できる場を設けたいと考えております。関連内容の特別講演，教育講演，シンポジウム，一般演題（口演・示説）については例年のように予定しておりますが，その他，これからの看護の方策を検討すめための研究メンバーを募る場，過去，現在，将来を通した会員の皆様の日頃の疑問・問題意識について，外国講演者を交えた意見交換ができる場も加えたいと思っております。なお，特別講演，シンポジウムについては全員の皆様が同時にご参加いただけるような計画をいたしております。

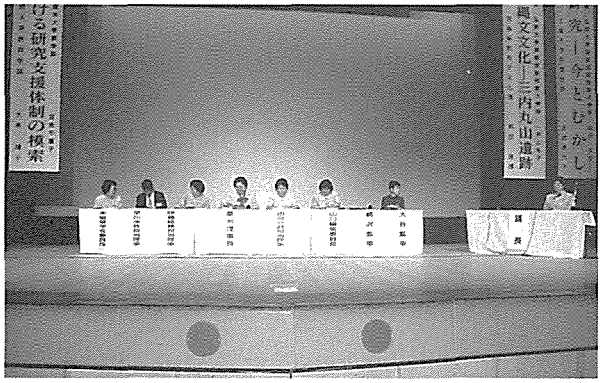
日本列島の中央といわれる浜松市で，東海地方初の学術集会を開催することになります。会場は，駅前の便利な所を選定しております。日頃のご研鑽の成果，臨床・看護教育の場で試みたい新しいアイディア，そして疑問，仲間をつくって研究したいテーマなどをもって，多数ご参加いただくことをお願いいたします。東海地方の会員一同，心からお待ちいたしております。



会　場　入　口

開 会 の 辞

会 長 講 演



総　　会

シ ン ポ ジ ウ ム

ポスターセッション風景

休憩時間を利用しての地方会

懇　親　会

次期会長のごあいさつ

第24回日本看護研究学会学術集会会務報告

1．会　期：平成10年７月30日（木）・31日（金）

2．場　所：弘前市民会館，弘前文化センター

3．参加者：会員 724名　　非会員 288名　　学生 189名

4．内　容：一般演題　　319題（10会場69群）

特別講演　　1題

シンポジウム　　1題

教育講演　　3題

会長講演

5．会計報告

収　　入	(円)	支　　出	(円)
参加費	8,474,000	会場費・設営費	5,080,255
本部補助金	400,000	当日運営費	2,999,288
学術集会準備費借入	2,000,000	講師等旅費・謝金・記念品	688,095
公的補助金	550,000	会議費	618,414
青森県		印刷費	807,295
弘前市		通信費	694,100
弘前大学学術研究奨励基金		事務費	1,376,418
		懇親会費	606,000
展示・広告・賛助	2,940,000	雑費	101,661
懇親会費	606,000	学術集会準備費返金	2,000,000
貯金利子	1,526		
合　　計	14,971,526	合　　計	14,971,526

以上報告します。

平成10年８月20日

第24■日本看護研究学会学術集会

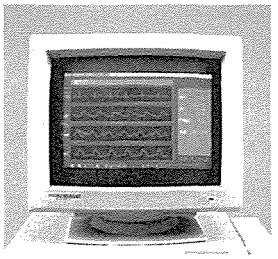
会 長 大 串 靖 子

M64 生体シミュレーター（心臓病用）A. V. P.トレーニングシステム

“イチロー”

指導：臨床心臓病学教育研究会　会長　高階　經和
東京工業大学　教授　清水　優史

頸静脈波・動脈拍動・心音・心尖拍動・呼吸音・心電図がライブに再現!!



（シミュレーション中はECG・CAP・JVP・ACGの波形が動画でモニターされます。）

MODEL 40　総合カタログ、パンフレット進呈

〈特　長〉

1. 心音については、患者から収録した心音をデジタル化して（A. P. T. M）の各部位から4チャンネルで実際に近い音を聴くことができます。
   また、解説では（A. P. T. M）の心音図を見ることもできます。
2. 動脈波形・頸静脈波形・心尖拍動波形がコンピューターのエアー制御により、モニター上のECGと完全に同調した状態で触診できます。
   また、解説ではECG・CAP・JVP・ACGの波形を静止画像として見ることもできます。
3. モニター画面では、シミュレーション中ECG・CAP・JVP・ACGの各波形が動画として描かれる他、心拍数血圧・体温・呼吸数も表示されます。

SINCE 1891

医学・看護教育、理科・産業教育用

（標本・模型・シミュレーター・実験機器・X線ファントム）

製造販売

株式会社 京都科学

本　社／〒612 京都市伏見区下鳥羽渡瀬町35-1
教育機器部　TEL（075）605-2510
FAX（075）605-2519

東京支店／〒112 東京都文京区小石川5丁目20-4
教育機器課　TEL（03）3817-8071
FAX（03）3817-8075

FUKUDA DENSHI

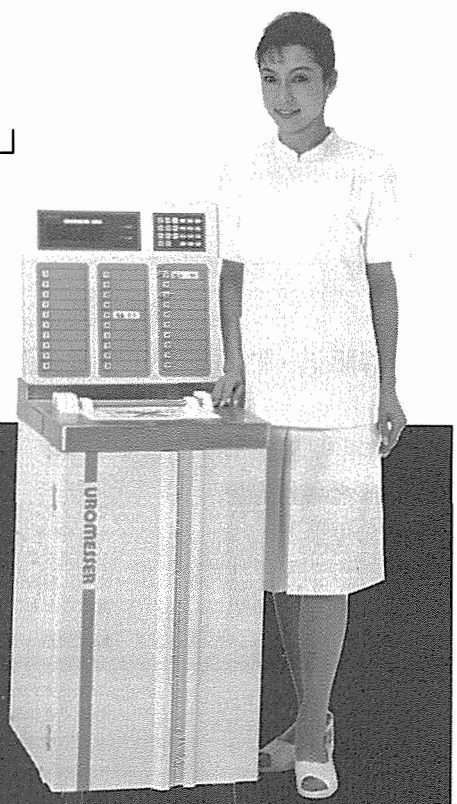
人と医療のコミュニケーション

採尿業務を大幅改善！

看護婦さんの日常ワークを支援

本装置を導入された婦長さんの感想

「汚物処理場から臭いが消えた」
「指定時刻のプリントにより患者データの精度が向上した」
「尿が他人に見られないですむ」
「サンプル尿を分注できる」
「患者さんとの接触時間が増えた」



採尿蓄量・比重測定装置

ウローメセル1500（15人用）
3000（30人用）
4000（40人用）

医療用具許可番号：11BZ0443

●採取尿を投入するだけで量と比重を自動測定
●ディスプレイ表示、音声機能で操作サポート
●ナースステーションで測定結果を集中管理

※写真はウローメセル3000

ホームページ http://www.fukuda.co.jp

●医用電子機器の総合メーカー
フクダ電子株式会社®
本社　東京都文京区本郷3-39-4 (03)3815-2121 (代) 〒113-8483

第3回日本看護研究学会東海地方会
学術集会のお知らせ

第3回学術集会を下記の日程で開催し，演題発表を募集します。

記

1．日時　平成11年1月31日（日）　9～16時

2．場所　今池ガスホール
名古屋市千種区今池 1丁目8-8 今池ガスビル 9階（TEL 052-732-3211）
地下鉄東山線「今池」下車 10番出口に直結　（名古屋駅より約15分）

3．プログラム
午前の部　総会
演題発表（口頭）

午後の部　シンポジウム　「再考・アセスメント　-看護診断につなげるために-　」
看護診断につなげるアセスメント　佐藤　重美（長野県看護大学）
看護診断から見直すアセスメント　松田あさみ（岐阜県立多治見病院）ほか
（敬称略）

4．演題発表募集要項
1)締め切り　平成10年10月31日（土）必着
2)資格　発表者，共同研究者共に日本看護研究学会員に限ります。
3)方法　以下のものを一括して事務局宛に送付して下さい。
①演題発表申込書
②抄録原稿　3部（別紙参照）　折らないこと。
③官製ハガキ1枚（表面に発表者の住所・氏名，裏面に演題名記載）
＊後日，採用の可否を通知します。
4)発表要領　時間は，討論を含めて15分 を予定しています。
ビジュアルエイドは，OHP又は35mmスライドに限ります。

5.参加申し込み
1)参加費　会員 3000円　非会員 4000円
2)締め切り　平成10年11月30日（月）
3)方　法　参加費の振り込みをもって，申し込み完了とさせていただきます。
下記の口座に 振込用紙1枚につき1名分をお振り込み下さい。
会員の方は，必ず会員番号を通信欄に記載して下さい。（別紙参照）

口座番号　00860-5-57417
加入者名　日本看護研究学会　東海地方会事務局

＊申し込みいただいた方には，12月初旬頃に抄録集を発送いたします。

日本看護研究学会東海地方会事務局
渡邊　順子（Yoriko Watanabe）　watanabe@met.nagoya.u-ac.jp
〒461-8673　名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学医学部保健学科
TEL & FAX　052-719-1574（直通）

第3回 日本看護研究学会 ・ 九州地方会のお知らせ

第３回日本看護研究学会・九州地方会を下記の要領により、久留米市において開催いたしますのでお知らせします。

平成１０年８月２０日
第３回日本看護研究学会・九州地方会
実行委員長　　阿蘇品スミ子

記

期　　日　平成１１年３月２０日（土曜日）　　９：３０～１６：００

場　　所　久留米大学医学部教育１号館

〒830-0003 福岡県久留米市旭町 68番地　　TEL (0942) 35-3311

内　　容　総会・研究発表会（一般演題）・講演
☆懇親会　16:00~18:00

参 加 費　会員　2.500円　　非会員　3.000円　　学生　1.000円

懇親会費　3.000円

参加費の振込み　同封の振込用紙で、平成１１年２月２０日迄にお振込みください。

九州地方会事務局　〒830-0003 福岡県久留米市東櫛原町 777-1番地

久留米大学医学部看護学科

第３回日本看護研究学会・九州地方会事務局　　FAX (0942) 31-7715

日本学術会議だより

第904回運営審議会の概要

（平成10.5.25）

第904回運営審議会は、平成10年5月25日（月）に開催され、次のような審議がありました。

1 平成10年度代表派遣について

次の会議に代表派遣することを了承しました。

(1) 法国際協会年次会議（IALS）
（6月10日～12日、メキシコシティ＝メキシコ）

(2) 発展途上国科学技術及び国際生命科学連絡委員会理事会（COSTED－IBN）
（7月1日～3日、パリ＝フランス）

(3) 第3回教育経営における情報技術に関する国際会議
（7月6日～10日、マイン＝アメリカ）

(4) 第20回世界牛病学会
（7月6日～10日、シドニー＝オーストラリア）

(5) ＩＡＵコロキウム No.172
「天文学における近代力学の衝撃」
（7月6日～11日、ナムール＝ベルギー）

(6) 気候変動／エネルギー・水循環コア会議
（7月7日～14日、ボルダー＝アメリカ）

(7) 国際自動制御連盟理事会（IFAC）
（7月8日～10日、ナント＝フランス）

(8) 第37回世界高分子コングレス
（7月12日～17日、ゴールド・コースト＝オーストラリア）

(9) 国際経営学会連合第4回世界大会
（7月13日～16日、アルカラ＝スペイン）

(10) 世界比較教育学会第10回大会
（7月13日～17日、ケープタウン＝南アフリカ共和国）

(11) 第25回南極研究科学委員会総会（SCAR）
（7月20日～31日、コンセプション＝チリ）

(12) 赤道大気上下結合プロジェクト国際運営委員会（EPIC）
（7月23日～24日、台北＝台湾）

(13) 第13回国際薬理学会議役員会（IUPHAR）
（7月26日～31日、ミュンヘン＝ドイツ）

(14) 第14回国際人類民族科学会議
（7月26日～8月1日、ウイリアムズ・バーグ＝アメリカ）

(15) 第15回比較法国際会議
（7月26日～8月1日、ブリストル＝イギリス）

(16) 第14回世界社会学会議
（7月26日～8月1日、モントリオール＝カナダ）

(17) 第61回隕石学会
（7月27日～31日、ダブリン＝アイルランド）

2 その他

日本学術会議が後援名義の使用を承認した国際会議

(1) 第6回インド洋・太平洋地域国際法医・法科学会総会
日時：平成10年7月26日～30日（5日間）
場所：神戸国際会議場（神戸市）

(2) 第4回ガルバテック'98国際会議
日時：平成10年9月20日～23日（4日間）
場所：(財)海外職業訓練協力センター（千葉市）

(3) 国際シンポジウム「腸管障害と成長因子・栄養素」
日時：平成10年10月31日～11月3日（4日間）
場所：リーガロイヤルホテル（大阪市）

(4) 第7回鉄鋼圧延国際会議
日時：平成10年11月9日～11日（3日間）
場所：(財)海外職業訓練協力センター（千葉市）

第905回運営審議会の概要

(平成10.6.22)

第905回運営審議会は、平成10年6月22日(月)に開催され、次のような審議がありました。

1 国際会議の閣議了解(報告)

平成11年度において、関係学術団体と共同して、次の国際会議を開催することについて、平成10年6月5日に閣議了解を得ました。

(1) 第12回有機ケイ素化学国際会議
(2) 第13回世界理学療法連盟学会
(3) 国際計測連合第15回世界大会
(4) 第11回国際女性技術者・科学者会議
(5) 第26回溶液化学国際会議
(6) 第12回国際応用言語学会世界大会(東京)
(7) 1999ルミネッセンスならびに凝縮系の光スペクトロスコピー国際会議
(8) 1999年IEEEシステム・マン・サイバネティクス国際会議

2 平成10年度代表派遣について

次の会議に代表派遣することを了承しました。

(1) 第12回世界医事法会議
(8月2日～6日、シオーフォク＝ハンガリー)
(2) 第24回半導体物理国際会議
(8月2日～7日、エルサレム＝イスラエル)
(3) 第9回国際農薬化学会議
(8月2日～7日、ロンドン＝イギリス)
(4) 第26回国際動物遺伝学会
(8月9日～8月14日、オークランド＝ニュージーランド)
(5) 第17回国際鉱物学連合総会(IMA)
(8月9日～18日、トロント＝カナダ)
(6) 第20回世界哲学会議
(8月10日～16日、ボストン＝アメリカ)
(7) 第2回国際健康心理学会議
(8月11日～12日、サンフランシスコ＝アメリカ)
(8) 第23回マクロ・マーケティング年次大会
(8月12日～15日、ロードアイランド＝アメリカ)
(9) 国際数学連合総会(IMU)
(8月14日～16日、ドレスデン＝ドイツ)
(10) IGCP-411プロジェクトミーティング
(8月17日～19日、クアラルンプール＝マレーシア)
(11) 第16回世界土壌学会議
(8月20日～26日、モンペリエ＝フランス)
(12) 国際農業工学会1998年理事会、幹部会及び関連会議(CIGR)
(8月20日～28日、オスロー＝ノルウェー)
(13) 第17回国際癌会議1998(総会)(UICC)
(8月23日～28日、リオデジャネイロ＝ブラジル)
(14) 国際考古動物学会議第8回国際会議
(8月23日～29日、ヴィクトリア＝カナダ)
(15) 国際財政学会第54回大会
(8月24日～8月27日、コルドバ＝アルゼンチン)
(16) 第12回国際経済史会議(総会)(IAEH)
(8月24日～8月28日、ゼヴィリア＝スペイン)
(17) 第12回国際犯罪学会議
(8月24日～8月29日、ソウル＝大韓民国)
(18) 第38回国際地域学会ヨーロッパ大会及び第11回地域科学先端的研究会
(8月28日～9月1日、ウィーン＝オーストリア)
(19) 1998年国際地理学連合地域会議(総会)(IGU)
(8月30日～9月2日、リスボン＝ポルトガル)
(20) 第58回国際薬学会議
(8月30日～9月4日、ハーグ＝オランダ)

(21)第33回錯体化学国際会議
(8月30日～9月4日、フローレンス＝イタリア)

(22)国際地理学連合地域会議98(役員会)
(8月30日～9月8日、リスボン＝ポルトガル)

3 その他

日本学術会議が後援名義の使用を承認した国内会議

(1) 応用物理教育シンポジウム
「科学技術創造立国の中での応用物理教育
――新たな応用物理教育を求めて――」
日時：平成10年9月5日～6日(2日間)
場所：東海大学山中湖セミナーハウス(南都留郡山中湖村)

日本学術会議が後援名義の使用を承認した国際会議

(1) 第2回表層地質が地震動に及ぼす影響に関する国際シンポジウム
日時：平成10年12月1日～3日(3日間)
場所：TEPCO R／Dセンター(横浜市)

(2) IUTAMシンポジウム：乱流の幾何学と統計
日時：平成11年11月1日～5日(5日間)
場所：湘南国際村センター(葉山町)

第906回運営審議会の概要

（平成 10.7. 31）

第906回運営審議会は、平成10年7月31日（金）に開催され、次のような審議がありました。

1. 平成10年度民間学術研究振興費補助金の交付についての答申

文部大臣から諮問のあった審査の方針及び対象の範囲について答申することを了承しました。

2. 平成10年度代表派遣

次の会議へ代表派遣することを了承しました。

(1) 第14回欧州頭蓋顎顔外科学会総会
（9月1日～5日、ヘルシンキ＝フィンランド）

(2) 第14回国際美学会
（9月1日～5日、リュブリヤナ＝スロベニア）

(3) 第5回科学諮問委員会とIGBP各国代表者会議（SAC-V）
（9月1日～7日、ナイロビ＝ケニア）

(4) 消化器病学世界大会
（9月6日～9月11日、ウィーン＝オーストリア）

(5) 国際行政学会第24回大会
（9月6日～12日、パリ＝フランス）

(6) 第3回環境地盤工学国際会議
（9月7日～11日、リスボン＝ポルトガル）

(7) 1998年国際溶接学会年次大会
（9月13日～20日、ハンブルグ＝ドイツ）

(8) 1998年非線型理論とその応用国際シンポジウム
（9月14日～17日、クラン・モンタナ＝スイス）

(9) 海洋研究科学委員会第24回総会（SCOR）
（9月14日～18日、テクセル＝オランダ）

(10) プロジェクトリンク国際会議1998年
（9月14日～18日、リオデジャネイロ＝ブラジル）

(11) 国際関係学会・欧州国際関係常設グループ合同会議
（9月15日～21日、ウィーン＝オーストリア）

(12) ヨーロッパ労働経済学会1998年年次大会
（9月17日～20日、ブランケンベルゲ＝ベルギー）

(13) ドイツ国法学者大会
（10月 7日～10日、ポツダム＝ドイツ）

(14) 第49回国際情報ドキュメンテーション連盟総会（FID）
（10月11日～17日、デリー＝インド）

(15) カナダ国際法学会第27回年次大会
（10月15日～18日、オタワ＝カナダ）

3. 共同主催国際会議委員会の設置及び同委員会委員の選任

平成11年度に共同主催する次の8会議について、委員会を設置し、委員を選任することを了承しました。

(1) 第12回有機ケイ素化学国際会議

(2) 第13回世界理学療法連盟学会

(3) 国際計測連合第15回世界大会

(4) 第11回国際女性技術者・科学者会議

(5) 第26回溶液化学国際会議

(6) 第12回国際応用言語学会世界大会（東京）

(7) 1999ルミネッセンスならびに凝縮系の光スペクトロスコピー国際会議

(8) 1999年IEEEシステム・マン・サイバネティクス国際会議

4. その他

日本学術会議が後援名義の使用を承認した国内会議

(1) 第3回帝京―ハーバード・シンポジウム
「医療と保健における評価」
日時：平成10年10月9日～10日（2日間）
場所：第1日 池袋サンシャインプリンスホテル（豊島区）
第2日 帝京大学医学部臨床大講堂(板橋区)

(2) 情報科学技術研究集会(第35回)
日時：平成10年10月12日～13日(2日間)
場所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)(品川区)

(3) 社会情報学シンポジウム'98
日時：平成10年10月19日
場所：東京大学安田講堂（文京区）

(4) 第9回クロマトグラフィー科学会議
日時：平成10年11月19日～20日（2日間）
場所：東京大学山上会館（文京区）

(5)'98国際長寿科学シンポジウム
日時：平成10年10月8日
場所：あいち健康の森　健康科学総合センター「あいち健康プラザ」プラザホール（愛知県知多郡東浦町）

日本学術会議が後援名義の使用を承認した国際会議

(1) 第1回プラスチック化学リサイクル国際シンポジウム
日時：平成11年10月31日～11月3日（4日間）
場所：仙台国際センター（仙台市）

人事異動（平成10年7月1日付）

日本学術会議事務局 日本学術会議会員推薦管理事務室長（国立公文書館内閣文庫長）櫻井宏充

国立公文書館公文書課長（日本学術会議事務局 日本学術会議会員推薦管理事務室長）田口正志

日本看護研究学会雑誌投稿規定

1．本誌投稿者は，著者及び共著者すべて，本学会員とする。但し，編集委員会により依頼したものはこの限りでない。

2．原稿が刷り上がりで，下記の論文種別による制限頁数以下の場合は，その掲載料は無料とする。その制限を超過した場合は，所定の料金を徴収する。超過料金は，刷り上がり超過分，１頁につき実費とする。

論文類別	制限頁数	原稿枚数（含図表）	原稿用紙（400字詰）5枚弱で刷り上がり1頁といわれている。図表は大小あるが，1つが原稿用紙1枚分以上と考える。
原　著	１０頁	約４５枚	
総　説	１０頁	約４５枚	
論　壇	２頁	約　９枚	
事例報告	３頁	約１５枚	
その他	２頁	約　９枚	

3．別刷りについては，予め著者より申し受けて有料で印刷する。
　料金は，30円×刷り上がり頁数×部数（50部を単位とする）

4．図表は，Ｂ５版用紙にトレースした原図を添える事。また，印刷業者でトレースが必要になった時はその実費を徴収する。

5．原稿には，表紙を付け
　1）上段欄に，表題，英文表題（各単語の頭文字を大文字とする），著者氏名（ローマ字氏名併記），所属機関（英文併記）並びに，希望する原稿種別を朱書し，キーワード３つ以内を記入すること。
　2）下段欄は，本文，図表，写真の枚数を明記すること。
　3）別刷りを希望する場合，別刷＊部と朱書すること。

6．投稿原稿は，表紙，本文，図表，写真等，オリジナル原稿のすべてに査読用コピー２部を添えて提出する。

7．投稿原稿の採否及び種別については，編集委員会で決定する。尚，原稿は原則として返却しない。

8．校正に当たり，初校は著者が，２校以後は著者校正に基づいて編集委員会が行う。
　尚，校正の際の加筆は一切認めない。

9．原稿執筆要項は，別に定める。

10．原稿送付先
　〒260-0856　千葉市中央区亥鼻１－２－10
　日本看護研究学会　編集委員会　委員長　山■　桂子　宛
　尚，封筒の表には，「日看研誌原稿」と朱書し，書留郵便で郵送の事。

11．この規定は，昭和59年12月１日より発効する。

付　則
　1）平成５年７月30日　　一部改正実施する。
　2）平成９年７月24日　　一部改正実施する。

原　稿　執　筆　要　項

1．原稿用紙B５判横書き400字詰めを使用し，本文にページ数を明記する。

2．当用漢字，新かなづかいを用い，楷書で簡潔，明瞭に書く事。（ワープロも可能）

3．原著の構成は，Ⅰ．緒言（はじめに），Ⅱ．研究（実験）方法，Ⅲ．研究結果（研究成績），Ⅳ．考察，Ⅴ．結論（むすび），Ⅵ．文献，とし，項目分けは，１．２．…，１）２）…，①，②…の区分とする。

4．数字は算用数字を用い，単位や符号は慣用のものを使用する。特定分野のみで用いられる単位，略号，符号や表現には註書きで簡単な説明を加える。

ローマ字は活字体を用い，出来ればタイプを用いること：mg，Eq等。イタリックを用いる場合は，その下にアンダーラインを付する事。

5．図表，写真等は，それを説明する文章の末尾に（表１）のように記入し，更に本文とは別に挿入希望の位置を，原稿の欄外に（表１）のごとく朱書する。図表は，原稿本文とは別にまとめて，巻末に添える事。

6．文献記載の様式

文献は，本文の引用箇所の肩に[1),2)]のように番号で示し，本文原稿の最後に一括して引用番号順に整理して記載する。文献著者が２名以上の場合は筆頭者名のみをあげ，○○他とする。

雑誌略名は邦文誌では，医学中央雑誌，欧文誌では，INDEX MEDICUS及びINTERNATIONAL NURSING INDEXに従うものとする。

［記載方法の例示］

・雑誌；近澤範子：看護婦のBurn Ontに関する要因分析－ストレス認知，コーピング；及びBURN OUTの関係－看護研究，21(2)，pp.159～172，1988

；Henderson，V.：The Essence of Nursing in High Technology. Nurs. Adm. Q.，9(4)，pp.1～9，Summer 1985.

・単行書；宗像恒次：行動科学からみた健康と病気，184，メジカルフレンド社，東京，1987.

；分担執筆のものについては：安藤格：心身の成長期の諸問題，健康科学（本間日臣他編），214～229，医学書院，東京，1986.

・訳書；Freeman & Heinrich：Community Health Nursing Practice，W.B. Saunders Company，Philadelphia，1981，橋本正巳監約，地域保健と看護活動－理論と実践－，医学書院サウンダース，東京，1984.

7．原著投稿に際しては，250語程度の英文抄録（Abstract）及び，その和文（400字程度）を付ける事。

8．英文タイトルは，最初（文頭）及び前置詞，冠詞，接続詞以外の単語の最初の文字を大文字とする。

9．この規定は，昭和59年12月１日より発効する。

付　則

１）平成５年７月30日　一部改正実施する。

２）平成９年７月24日　一部改正実施する。

３）平成10年７月30日　一部改正実施する。

事 務 局 便 り

1．学術刊行物による雑誌送本が2年目となり，個人宛にお送りしております。その年度の会費をお納めいただいた会員の方に送付致しておりますので，ご了承下さい。

2．**平成10年度会費の納入について**

本学会は会員のみな様の会費で運営されております。

平成10年度会費	一般会費	7，000円
	理事会費	15，000円
	評議員会費	10，000円
支払い方法	郵便振込	
払い込み先	郵便振替	00100－6－37136

会員番号記入欄に必ず会員番号をご記入下さい。

尚，平成9年度会費未納の方がおります。至急納入して下さい。

3．雑誌等が返送されたり，旧所属から苦情をいただくことがあります。事務局で調査し，出来る限り再発送しておりますが，住所不明となる方も少なくありません。

改姓，住所，所属変更の場合は，ご多用とは思いますが，お早めに必ず葉書又は，封書，FAX（043－221－2332）で郵便番号（平成10年2月から7桁に変わりました。）貴氏名，会員番号，住所，所属名，所属住所も正確に楷書でご記入の上，事務局までお知らせ下さい。難しい文字は，ふりがなをお願い致します。

会員増加により同姓，同名の会員がおりますので，事務局にご連絡，及び会費納入の場合，**会員番号**をご記入下さるようお願い致します。

4．下記の方が住所不明です。ご存じの方は，本人，または事務局までご連絡をお願い致します。

あ－230	芦崎泉恵	こ－220	小浦佐知恵	さ－174	佐伯恭子	た－371	高橋知子
て－033	鄭　理英	と－093	豊田百合子	ひ－128	秀平香織	ま－116	松井洋子

日 本 看 護 研 究 学 会 雑 誌

第 2 1 巻　4 号

会員無料配布

平成10年8月20日　印刷
平成10年9月20日　発行

発行所　日 本 看 護 研 究 学 会
〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1－2－10
TEL　043－221－2331
FAX　043－221－2332

発 行 責任者　草 刈 淳 子

印刷所　（株）正 文 社
〒260-0001 千葉市中央区都町2－5－5
TEL　043－233－2235
FAX　043－231－5562

編集委員
委 員 長　山口　桂子（愛知県立看護大学）
副委員長　川島みどり（健和会臨床看護学研究所）
石井　トク（岩手県立大学看護学部）
泉　キヨ子（金沢大学医学部保健学科）
金川　克子（東京大学医学部健康科学看護学科）
紙屋　克子（筑波大学社会医学系医科学研究科）
河合千恵子（久留米大学医学部看護学科）
川口　孝泰（兵庫県立看護大学）
近田　敬子（兵庫県立看護大学）

入会申込書記入の説明

・入会する場合は評議員の推薦をえて，この申込書を事務局（〒260-0856　千葉市中央区亥鼻１－２－10 日本看護研究学会）宛に郵送し，**入会金３,０００円と年会費７,０００円，合計１０,０００円を郵便振替** ００１００－６－３７１３６ 日本看護研究学会事務局宛に送金して下さい。

・氏名の「ふりがな」を忘れないでご記入下さい。

・ご記入の際，すべて楷書でお願いいたします。

地区の指定について

・勤務先又は，自宅住所のいづれかを地区登録して下さい。尚，地区の指定がない時は，勤務先の地区にいたします。

（きりとり線）

入　会　申　込　書

日本看護研究学会理事長　殿

平成　　年　　月　　日

貴会の趣旨に賛同し会員として　　年度より入会いたします。

ふりがな		自宅℡
氏名		所属℡
勤務先		
勤務先住所	〒　－	
自宅住所	〒　－	
推薦者氏名	㊞	会員番号　－
推薦者所属		
事務局記入欄	年度入会　会員番号　－	

地区割

地区名	都道府県名
北海道	北海道
東北	青森，岩手，宮城，秋田，山形，福島
関東	千葉，茨城，栃木，群馬，新潟
東京	東京，埼玉，山梨，長野
東海	神奈川，岐阜，静岡，愛知，三重
近畿・北陸	滋賀，京都，大阪，兵庫，奈良，和歌山，福井，富山，石川
中国・四国	島根，鳥取，岡山，広島，山口，徳島，香川，愛媛，高知
九州	福岡，佐賀，長崎，熊本，大分，宮崎，鹿児島，沖縄

書類等送付先はどちらを希望されますか（勤務先・自宅）

ナースによるナースのための看護研究の決定版!

Essentials of Nursing Research　Fifth Edition

看護研究エッセンシャルズ

新刊

著　ルシールE.ノッター，ジャクリーン ローズ ホット
監訳　内海　滉　千葉大学名誉教授
訳　松永保子　山形県立保健医療短期大学助教授
　　野々山未希子　国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター

■『ナーシング・リサーチ』を改題,新版を全面的に改訳!
具体的な論文を随所に挙げて看護研究全般のエッセンスをわかりやすく,コンパクトにまとめた書。

■これから看護研究を行う人や,すでに研究をしている人の知識の確認に!

目次

I　看護研究とはなにか
1. 看護における研究活動の発展
2. 研究の意味と目的
II　研究の手順
3. 問題の選定
4. 文献の検索
5. 仮説
6. 研究方法
7. データの収集
8. データの分析
9. 所見,結論,提案
10. 研究報告:研究結果の伝達
III　研究の評価
11. 評価のプロセス
付録　執筆に役立つ参考資料
　　研究用語の解説

●A5　頁176　図3　表7　1998　定価(本体2,400円+税)　〒400
[ISBN4-260-34317-3]

看護研究に携わる人に!　既刊本

Nursing Research:Principles and Methods,3rd ed.

看護研究 原理と方法

著　Denis F.Polit　Bernadette P.Hungler
監訳 近藤潤子

内容の適切な選定，明快で組織的な記述，具体的でわかりやすい用例など，どの点をとっても間然するところのない優れた看護研究のテキスト。

●B5 頁456 図61 写真2 1994 定価(本体7,600 円+税) 〒400
[ISBN4-260-34130-8]

看護研究のためのやさしい統計学

内海 滉

看護研究を長年にわたって指導してきた著者が，豊富な経験に基づいて，どのような研究にはどのような統計の手法が適しているかを，実例を示しながら懇切丁寧に説明。

●A5 頁112 図21 表72 1995 定価(本体1,700円+税) 〒400
[ISBN4-260-34199-5]

はじめての看護研究

青木和夫　伊藤景一

病院の中で看護研究の指導経験の豊富な著者が，通常はなかなか教えてもらえない研究の秘訣やノウハウを打ち明けてくれる。

●A5 頁200 図26 1994 定価(本体1,900円+税) 〒400
[ISBN4-260-34156-1]

A Dictionary of Nursing Theory and Research

看護研究用語事典

著　Bethel Ann Powers　Thomas R.Knapp
監訳 内海 滉

理論研究の基本用語から始まり，最近の用語，統計学の基本用語など，約230語について解説。「読む事典」である。用語の意味の理解と確認に最適の事典といえる。

●四六版 頁184 1994 定価(本体2,400円+税) 〒400
[ISBN4-260-34123-5]

医学書院　〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3 (販売部) TEL 03-3817-5657 FAX 03-3815-7804
E-mail issd@ba2.so-net.or.jp　http://www.igaku-shoin.co.jp　振替 00170-9-96693